
第 133 回日本森林学会大会プログラム

会 期 2022 年 3 月 27 日（日）～3 月 29 日（火）

会 場 山形県生涯学習センター遊学館（公開シンポジウム）、オンライン開催（研究発表）

大会日程

3 月 26 日（土）（大会前日）

13:00～17:00 【学会企画】 4 年制大学における森林科学教育の現状と今後の方向
—技術者教育の視点から—

3 月 27 日（日）

10:00～10:30 【開会式】

10:30～12:00 【日本森林学会各賞授賞式・受賞者講演】

11:30～13:00 【学会企画】 あつまれ！がっかいの森（昼の部）

13:00～16:30 【公開シンポジウム】 東北の森から —山の文化と人々の暮らし—

3 月 28 日（月）

9:00～12:00 【研究発表】 企画シンポジウム・公募セッション

13:00～17:00 【研究発表】 企画シンポジウム・公募セッション・部門別発表

16:30～18:00 【学会企画】 大学での森林の学びや研究を知ろう—高校生と大学生との交流を交えて

17:00～19:00 【学会企画】 帰国留学生会員およびアジアの林学会とのネットワークフォーラム

17:00～20:00 【学会企画】 あつまれ！がっかいの森（夜の部）

3 月 29 日（火）

9:00～12:00 【研究発表】 部門別発表

12:15～14:15 【学会企画】 森林学会におけるダイバーシティ

14:15～16:30 【研究発表】 部門別発表

16:30～17:30 【閉会式】

3 月 27 日（日）～3 月 29 日（火）【研究発表】 ポスター・口頭（オンデマンド閲覧・視聴）

主 催 一般社団法人 日本森林学会

第 133 回日本森林学会大会運営委員会

林田光祐（委員長）、立川史郎（副委員長）、堀米英明（副委員長）、山中高史（副委員長）、芦谷竜矢、伊藤幸男、漆原隆一、大築和彦、菊池俊一、國崎貴嗣、齋藤仁志、白旗学、高田乃倫子、滝沢裕子、中村克典、林雅秀、真坂一彦、松木佐和子、柳原敦、山崎遥、山本信次、吉村謙一

連絡先

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町 1-23 山形大学農学部内

第 133 回日本森林学会大会運営委員会

E-mail:133committee@forestry.jp

第133回 日本森林学会大会 公開シンポジウム

東北の森から

～ 山の文化と人々の暮らし ～

令和
4年 3月27日(日)

開演 13:00

終演 16:30

会場 山形県生涯学習センター遊学館
(山形県山形市緑町1丁目2-36)

オンライン同時配信
(Zoom ウェビナー)

参加費無料・申し込み不要 (ただし、会場参加は人数制限あり)

東北の豊かな森林には、伝統的な文化の香りを残す生活や産業が今なお息づいています。

近代化の波の中で失われつつある伝統的な森林と人との関わりを今一度見つめ直し、

持続可能な産業や社会のあり方を考えるきっかけを、東北から発信します。

プログラム

司会: 松木 佐和子 (岩手大学農学部)

講演
1

『あがりこ』を通して語る東北地方の自然と文化

永幡 嘉之 自然写真家

講演
2

三面集落モデル ―市場化プロセスの中山間地生活構造変動期を中心に―

田回 洋美 東北芸術工科大学

講演
3

置賜の山との暮らしを伝える草木塔と木流し

荒澤 芳治 田沢郷土誌編集委員・おいたま草木塔の会会長・森林インストラクター

講演
4

伝統の国産漆から地方創生へ

福田 達胤 小西美術工芸社

コメント

未来につなぐ東北の豊かな森林と文化

泉 桂子 岩手県立大学総合政策学部

森林・自然環境技術教育センター (JABEE) による森林分野CPD (4時間) 認定プログラム

オンライン参加のURLは、日本森林学会のホームページ
(<https://www.forestry.jp/meeting/>)に掲載します。

こちらからご参加・
ご視聴ください。



主催: 一般社団法人 日本森林学会 共催: 公益社団法人 国土緑化推進機構

後援: 山形大学、岩手大学、山形県、岩手県、森林研究・整備機構森林総合研究所東北支所

本シンポジウムは、公益社団法人 国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」からの助成を受けています。

お問い合わせ: knakam@fpri.affrc.go.jp (中村克典)

2022年度 日本森林学会各賞 受賞者および受賞業績

1. 日本森林学会賞

井上 真理子（森林総合研究所）

持続的資源利用のための森林教育の展開と実践

溝上 展也（九州大学）

熱帯アジアにおける択伐林業と森林劣化との関連性

2. 日本森林学会学生奨励賞

金 慧隣（投稿時：北海道大学 応募時：北海道大学）

Understanding services from ecosystem and facilities provided by urban green spaces: A use of partial profile choice experiment

田邊 智子（投稿時：京都大学 応募時：京都大学）

A new approach to identify the climatic drivers of leaf production reconstructed from the past yearly variation in annual shoot lengths in an evergreen conifer (*Picea mariana*)

萩原 幹花（投稿時：京都大学 応募時：京都大学）

Effective distance of volatile cues for plant-plant communication in beech

3. Journal of Forest Research 論文賞

Chisato Takenaka, Akihisa Fukushi and Yosuke Matsuda

論文題目：Arbuscular mycorrhizal fungi facilitate the uptake of radiocesium by *Eleutherococcus sciadophylloides* (Araliaceae) – a pot-scale and field survey

掲載巻号・頁・発行年：Vol.26, No.2, 101–109, 2021

（筆頭著者の所属：名古屋大学）

Shin-Ichiro Aiba, Yusuke Kira, Koume Araki, Fumiko Imamura, Taizo Ishinuki, Takafumi Nagata, Soichio Shimonishi, Shin Ugawa, Seiji Wakiyama, Toshihiro Yamada, Tsuyoshi Yoneda and Eizi Suzuki

論文題目：Latitudinal and altitudinal variations across temperate to subtropical forests from southern Kyushu to the northern Ryukyu Archipelago, Japan

掲載巻号・頁・発行年：Vol.26, No.3, 171–180, 2021

（筆頭著者の所属：北海道大学）

4. 日本森林学会誌論文賞

鶴崎 幸・山川 博美・伊藤 哲・重永 英年・佐々木 重行

論文題目：競合植生によって異なるスギ造林地の下刈り要否の判断基準

掲載巻号・頁・発行年：102 巻 4 号, 225-231, 2020 年

（筆頭著者の所属：福岡県農林業総合試験場）

3月27日（日）10時から行われる開会式に続いて、授賞式ならびに学会賞、学生奨励賞の受賞者講演をオンラインで行います。また、大会開催期間中、Journal of Forest Research 論文賞・日本森林学会誌論文賞のポスターをオンラインのポスター会場にて展示します。

大会に参加される方へ

オンライン会場への参加

本大会はオンライン会場（大会プラットフォーム“Claris”）で開催します。日本森林学会の大会ウェブサイト（<http://www.forestry.jp/meeting>）にオンライン会場へのリンクを掲載します。参加申込みをした際に発行された【WEB 受付番号】と【登録したメールアドレス】を用いて、オンライン会場にログインして下さい。

口頭発表会場への入室

オンライン会場内に、企画シンポジウム、公募セッション、部門別の口頭発表が行われる Zoom Meeting の Room へのリンクが貼られています。各 Room に入室する際、名前の欄に「氏名（所属）」を記入し、マイクとカメラを必ずオフにするようにお願いします。質疑応答は座長の進行にしたがい口頭で行います。挙手機能を用いて手をあげ、座長の指名を受けてからマイクをオンにして発言して下さい。また、口頭発表中（動画配信中）は、チャットからの文字入力による質問も受け付けます。なお、大会期間中は、口頭発表の動画ファイルをオンデマンド視聴できます。

ポスター発表の閲覧

オンライン会場内にポスター発表のタイトル一覧が掲示されています。タイトルをクリックすると、発表要旨やポスターを閲覧することができます。質疑応答はチャット形式による文字入力で行います。

学術講演集

本大会では、学術講演集（要旨集）の冊子体を大会参加者に配布しません（希望者には後日販売します）。学術講演集の pdf 版は 3 月中旬頃に、大会ウェブサイトへアップする予定です。なお、各発表要旨はオンライン会場内に掲示されますので個別に閲覧できます。

研究発表される方へ

発表ファイルの提出

口頭発表、ポスター発表いずれについても、研究発表ファイルを事前に提出して頂きます。提出期間は 2022 年 2 月 1 日～3 月 4 日（厳守）です。発表ファイルの作成方法と提出方法については、大会ウェブサイトをご覧ください。

口頭発表

公募セッションと部門別の口頭発表は Zoom Meeting で行います。上記の「大会に参加される方へ」に記した方法で各発表会場（Room）へ、セッション開始 10 分前までに入室して下さい。発表は、プログラムにしたがって、事前に提出された発表ファイルを運営スタッフが配信する方法で行います。発表者による動画配信やリアルタイムでの発表はできません。質疑応答は、座長の進行にしたがい発表時間中にリアルタイム（口頭）で行います。

ポスター発表

事前に提出された発表ファイルをオンライン会場内に掲示します。質疑応答は、掲示期間中にチャット形式で行います。リアルタイムの質疑応答（コアタイム）は行いません。

企画シンポジウム

各コーディネータに責任を持って運営していただきますので、発表者はその指示に従ってください。なお、大会運営委員会への研究発表ファイルの事前提出は必要ありません。

大会スケジュール 3月26日(前日)

会場	別枠
開始時刻	
9:00	
9:15	
9:30	
9:45	
10:00	
10:15	
10:30	
10:45	
11:00	
11:15	
11:30	
11:45	
12:00	
12:15	
12:30	
12:45	学会企画1
13:00	4年生大学における森林科学 教育の現状と今後の方向 —技術者教育の視点から—
13:15	
13:30	
13:45	
14:00	
14:15	
14:30	
14:45	
15:00	
15:15	
15:30	
15:45	
16:00	
16:15	
16:30	
16:45	
17:00	
17:15	
17:30	
17:45	
18:00	
18:15	
18:30	
18:45	

大会スケジュール 3月27日

会場	別枠	別枠
開始時刻		
9:00		
9:15		
9:30		
9:45	開会式・授賞式・講演	
10:00	開会式	
10:15		
10:30	森林学会各賞授賞式 受賞者講演	
10:45		
11:00		
11:15		学会企画5
11:30		あつまれ！ がっかいの森 < 昼の部 >
11:45		
12:00		
12:15		
12:30		
12:45	公開シンポジウム	
13:00	東北の森から ～山の文化と人々の暮らし～	
13:15		
13:30		
13:45		
14:00		
14:15		
14:30		
14:45		
15:00		
15:15		
15:30		
15:45		
16:00		
16:15		
16:30		
16:45		
17:00		
17:15		
17:30		
17:45		
18:00		
18:15		
18:30		
18:45		

大会スケジュール 3月28日

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4	Room 5
開始時刻	S1	S2	S3	S4	T2
9:00					趣旨説明
9:15					T2-1
9:30	S1-1	S2-1	S3-1	S4-1	T2-2
9:45	S1-2	S2-2	S3-2	S4-2	T2-3
10:00	S1-3	S2-3	S3-3	S4-3	T2-4
10:15	S1-4	S2-4	S3-4	S4-4	総合討論
10:30		S2-5	S3-5	S4-5	
10:45			S3-6	S4-6	
11:00			S3-7	S4-7	
11:15				S4-8	
11:30					
11:45					
12:00					
12:15					
12:30					
12:45	遺伝・育種	教育	経営1	林政1	風致・観光1
13:00	F1	C1	D1	A1	B1
13:15	F2	C2	D2	A2	B2
13:30	F3	発表取消	D3	A3	B3
13:45	F4	C4	D4	A4	B4
14:00	F5	討論・調整	D5	A5	討論・調整
14:15	討論・調整	C5	討論・調整	討論・調整	B5
14:30	F6	C6	D6	A6	B6
14:45	F7	C7	D7	A7	B7
15:00	F8	C8	D8	A8	討論・調整
15:15	F9	討論・調整	D9	A9	B8
15:30	F10	C9	D10	A10	B9
15:45	F11	C10	討論・調整	討論・調整	B10
16:00	討論・調整	C11			B11
16:15		C12			討論・調整
16:30		討論・調整			
16:45					
17:00					
17:15					
17:30					
17:45					
18:00					
18:15					
18:30					
18:45					

■企画シンポジウム一覧

- S1. スギ雄性不稔遺伝子の同定およびマーカー選抜技術の開発と利用
- S2. 山地森林環境の長期的な変化と、それらが水・土砂・流木の流出に及ぼす影響をふまえた災害予測の可能性
- S3. 環境変化にともなう森林の生産性と分布の予測
- S4. 森林バイオマス利用はカーボンニュートラルか？ 炭素負債問題を理解する
- S5. 生理部門企画シンポジウム「動的な細胞壁」とポスター紹介・討論

大会スケジュール 3月28日

会場	Room 6	Room 7	Room 8	別枠	別枠
開始時刻					
9:00					
9:15	T1				
9:30	趣旨説明				
9:45	T1-1				
10:00	T1-2				
10:15	T1-3				
10:30	討論・調整				
10:45	T1-4				
11:00	T1-5				
11:15	総合討論				
11:30					
11:45					
12:00					
12:15					
12:30					
12:45	T3	T4	S5		
13:00	趣旨説明	趣旨説明	S5-1 S5-2 S5-3		
13:15	T3-1	T4-1			
13:30	T3-2	T4-2			
13:45	T3-3	T4-3			
14:00	討論・調整	討論・調整			
14:15	T3-4	T4-4			
14:30	T3-5	T4-5			
14:45	T3-6	T4-6			
15:00	総合討論	T4-7			
15:15		総合討論			
15:30					
15:45					
16:00			生理		
16:15			G1	学会企画2	
16:30			G2	大学での森林の学 びや研究を知ろう －高校生と大学生 との交流を交えて －	
16:45	学会企画5		討論・調整		学会企画3
17:00	あつまれ！ がっかいの森 <夜の部> ～20:00 Gather.town			帰国留学生会員お よびアジアの林学 会とのネットワー クフォーラム	
17:15					
17:30					
17:45					
18:00					
18:15					
18:30					
18:45					

■公募セッション一覧

T1. 生物多様性保全と森林管理

T2. 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究 - 森林+αのころみ-

T3. 森林の放射能研究

T4. 樹木根の成長と機能

大会スケジュール 3月29日

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4	Room 5	Room 6	Room 7	Room 8
開始時刻	経営2	林政2	動物・昆虫1	造林1	風致・観光2		立地	微生物
9:00	D11	A11	発表取消	E1	B12		I1	M1
9:15	D12	A12	L2	E2	B13		I2	M2
9:30	D13	A13	L3	E3	B14		I3	M3
9:45	D14	発表取消	討論・調整	討論・調整	討論・調整	植物生態1	I4	M4
10:00	D15	討論・調整	L4	E4	B15	H1	討論・調整	討論・調整
10:15	討論・調整	A15	L5	E5	B16	H2		M5
10:30	D16	A16	L6	E6	B17	H3	防災・水文1	M6
10:45	D17	A17	討論・調整	E7	B18	討論・調整	J1	M7
11:00	D18	A18	L7	討論・調整	討論・調整	H4	J2	討論・調整
11:15	D19	A19	L8			H5	J3	M8
11:30	D20	討論・調整	L9			H6	討論・調整	M9
11:45	討論・調整		討論・調整			討論・調整		討論・調整
12:00								学会企画4
12:15								森林学会におけるダイバーシティ
12:30								
12:45								
13:00								
13:15								
13:30								
13:45								
14:00	経営3	林政3	動物・昆虫2	造林2	利用	植物生態2	防災・水文2	
14:15	D21	A20	L10	E8	K1	H7	J4	
14:30	D22	A21	L11	E9	K2	H8	J5	
14:45	D23	A22	L12	E10	K3	H9	J6	特用林産
15:00	D24	A23	L13	討論・調整	K4	H10	討論・調整	N1
15:15	D25	A24	討論・調整	E11	討論・調整	討論・調整	J7	N2
15:30	討論・調整	討論・調整	L14	E12	K5		J8	N3
15:45			L15	E13	K6		J9	討論・調整
16:00			L16	E14	発表取消		J10	
16:15			討論・調整	討論・調整	討論・調整		討論・調整	
16:30	閉会式							
16:45								
17:00								
17:15								
17:30								
17:45								
18:00								

口頭発表座長一覧

部門	発表番号	座長氏名 (所属)	テーマ別セッション	発表番号	座長氏名 (所属)
林政1	A1	三木敦朗 (信州大学)	T1	T1-1~3	山中聡 (森林総合研究所)
	A2~A10	直前の発表者		T1-4~5	山浦悠一 (森林総合研究所)
林政2	A11	芳賀大地 (鳥取大学)	T2	T2-1~4	上原巖 (東京農業大学)
	A12~A19	直前の発表者	T3	T3-1~3	小松雅史 (森林総合研究所)
林政3	A20	垂水亜紀 (森林総合研究所)	T4	T3-4~6	大久保達弘 (宇都宮大学)
	A21~A24	直前の発表者		T4-1~3	福澤加里部 (北海道大学)
	討論・調整	横田康裕 (森林総合研究所)			大橋瑞江 (兵庫県立大学)
風致・観光1	B1~B4	平野悠一郎 (森林総合研究所)	T4-4~7		藤堂千景 (兵庫県農技センター)
	B5~B7	町田怜子 (東京農業大学)			
	B8~B11	山本清龍 (東京大学)			
風致・観光2	B12~B14	奥敬一 (富山大学)			
	B15~B18	庄子康 (北海道大学)			
教育	C1~C4	山田亮 (北海道教育大学)			
	C5~C8	東原貴志 (上越教育大学)			
	C9~C12	寺下太郎 (愛媛大学)			
経営1	D1~D5	小谷英司 (森林総合研究所)			
	D6~D10	栗屋善雄 (岐阜大学)			
経営2	D11~D15	加藤 顕 (千葉大学)			
	D16~D20	米 康充 (鳥根大学)			
経営3	D21~D25	長島啓子 (京都府立大)			
造林1	E1~E3	渡邊仁志 (岐阜県森林研究所)			
	E4~E7	平田令子 (宮崎大学)			
造林2	E8~E10	太田敬之 (森林総合研究所)			
	E11~E14	酒井武 (森林総合研究所)			
遺伝・育種	F1~F5	福田有樹 (林木育種センター)			
	F6~F11	山中豪 (三重県林業研究所)			
生理	G1~G2	則定真利子 (東京大学)			
植物生態1	H1~H3	平田晶子 (森林総合研究所)			
	H4~H6	平田晶子 (森林総合研究所)			
植物生態2	H7~H10	菅井徹人 (森林総合研究所)			
立地	I1~I4	高木正博 (宮崎大農)			
防災・水文1	J1~J3	鶴田 健二 (滋賀県琵琶湖研)			
防災・水文2	J4~J6	経隆 悠 (森林総合研究所)			
	J7~J10	井手 淳一郎 (千歳科学技術大学)			
利用	K1~K4	斎藤仁志 (岩手大学)			
	K5~K7	山口浩和 (森林総合研究所)			
動物・昆虫1	L1~L3	小池伸介 (東京農工大学)			
	L4~L6	箕口秀夫 (新潟大学)			
	L7~L9	山崎理正 (京都大学)			
動物・昆虫2	L10~L13	中村克典 (森林総合研究所)			
	L14~L16	加賀谷悦子 (森林総合研究所)			
微生物	M1~M4	松田陽介 (三重大学)			
	M5~M7	奈良一秀 (東京大学)			
	M8~M9	太田祐子 (日本大学)			
特用林産	N1~N3	竹本周平 (東京大学)			

研究発表題目（企画シンポジウム） 3月28日 午前 1/2

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4
開始時刻	S1 スギ雄性不稔遺伝子の同定および マーカー選抜技術の開発と利用	S2 山地森林環境の長期的な変化と、 それらが水・土砂・流木の流出に 及ぼす影響をふまえた災害予測の 可能性	S3 環境変化にともなう森林の生産性 と分布の予測	S4 森林バイオマス利用はカーボン ニュートラルか？ 炭素負債問題 を理解する
9:00	S1-1 スギ雄性不稔遺伝子(MSI)の同定:長谷川陽一(森林総合研究所)ら	S2-1 山地の植生の歴史的な安定性はまだよくわかっていない:大住克博	S3-1 変動光に対するブナ苗の光合成応答に与えるオゾンと高濃度CO ₂ の影響:渡辺誠(東京農工大学)ら	S4-1 導入:森林バイオマス利用における炭素負債問題:相川高信(公益財団法人自然エネルギー財団)
9:15	S1-2 日本各地からのスギ雄性不稔遺伝子MSIを持つ個体のマーカー利用選抜:渡部大寛(新潟大学大学院)ら	S2-2 森林とはげ山の土砂流出に関する研究を振り返る:内田太郎(筑波大学)	S3-2 オゾン濃度の増加が遺伝的背景の異なるスギ稚樹の光合成と成長に与える影響:飛田博順(森林総合研究所)ら	S4-2 森林由来の輸入バイオマスによるバイオマス発電の気候変動対策効果の検討:泊みゆき(NPO法人バイオマス産業社会ネットワーク)
9:30	S1-3 MSI遺伝子型判定の簡易化と組織培養による無花粉スギ苗増殖への応用:鶴田燃海(森林総合研究所)ら	S2-3 文献資料に見る第二次世界大戦期における松根油生産の概観:齋藤暖生(東京大学)	S3-3 高濃度オゾン環境におけるシラカンパ葉の脂肪酸組成と虫害(予報):増井昇(北海道大学)ら	S4-3 森林の成長と利用に係る炭素負債問題についての一考察:古坂寛隆(北海道立総合研究機構)ら
9:45	S1-4 機能証明実験による無花粉スギMS4原因遺伝子の同定:角井宏行(新潟大学)ら	S2-4 森林の管理や状態変化が土砂流出に及ぼす影響:堀田紀文(東京大学)ら	S3-4 高オゾン環境での欧州ヤマナラン稚種とドロノキ萌芽の病虫害:小池孝良(北海道大学)ら	S4-4 木質バイオマス燃料のサプライチェーン別ライフサイクルGHG排出量推計:大久保敏宏(一般社団法人日本木質バイオマスエネルギー協会)
10:00		S2-5 茨城県北部における森林の表土保持機能の戦後の変遷—拡大造林から成熟へ—:南光一樹(森林総合研究所)ら	S3-5 紅葉は樹冠内部の葉を守り、樹冠全体での炭素獲得と窒素回収に貢献する:北尾光俊(森林総合研究所)ら	S4-5 木質バイオマスの低炭素エネルギー利用に向けた課題:久保山裕史(森林総合研究所)
10:15			S3-6 道路周辺樹木は大気汚染で枯れたり枯れなかったりするの何故か:久米篤(九州大学)ら	S4-6 ヤナギを用いた超短伐期栽培による木質バイオマス生産手法開発の現状と課題:原山尚徳(森林総合研究所)ら
10:30			S3-7 森林生態系に蓄積した大気汚染レガシーの気象変動による可動化:佐瀬裕之(アジア大気汚染研究センター)ら	S4-7 旧薪炭林広葉樹材を活用した熱供給事業の可能性:羽里信和(一般社団法人徳島地域エネルギー)
10:45				S4-8 林地未利用材の収集と利用—岐阜県、秋田県、岩手県を例に—:佐藤政宗(株式会社森のエネルギー研究所)ら
11:00				
11:15				
11:30				
11:45				
12:00				

研究発表題目（公募セッション） 3月28日 午前 2/2

会場	Room 5	Room 6	Room 7	Room 8
開始時刻	T2 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究 - 森林 + α のこころみ -	T1 生物多様性保全と森林管理		
9:00	趣旨説明			
9:15	T2-1 注意回復要素とスピリチュアリティとの関連:尾崎勝彦(フリーランス)ら			
9:30	T2-2 バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する森林公園・自然休養林の類型化:竹内啓恵(全国森林レクリエーション協会)ら	趣旨説明		
9:45	T2-3 地域の森林空間を活用した健康・睡眠及び労働意欲改善に向けた取り組み:高山範理(森林総合研究所)ら	T1-1 保持林業実証実験における枯死材性甲虫類の保持木に対する選好性:山中聡(森林総合研究所)ら		
10:00	T2-4 北海道弟子屈町川湯温泉における森林療法の導入模索の事例:上原巖(東京農業大学)	T1-2 針葉樹人工林の伐採地に保持した広葉樹とその量に対するコウモリ類の応答:河村和洋(森林総合研究所)ら		
10:15	総合討論	T1-3 人工林における天然木の実験的な保持は鳥類群集を支持する:山浦悠一(森林総合研究所)ら		
10:30	総合討論	討論・調整		
10:45		T1-4 沖縄島北部人工林での異なる伐区形状とサイズが更新木の種組成に及ぼす影響:谷口真吾(琉球大学)ら		
11:00		T1-5 哺乳類と森林管理:ヒグマを例に:富田幹次(北海道大学)		
11:15		総合討論		
11:30		総合討論		
11:45				
12:00				

研究発表題目 (部門別口頭発表) 3月28日午後 1/2

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4
開始時刻	遺伝・育種	教育	経営1	林政1
13:00	F1 グイマツ雑種F ₁ 半兄弟家系における若齢時の形質のゲノムワイド関連解析: 陳淑芬(東京大学)ら	C1 卒園生にとっての「森のようちえん」での体験の意義: 浅井康晴(岩手大学)ら	D1 UAV画像を用いた造林木位置推定手法の検討: 中川太人(信州大学 大学院)ら	A1 市町村森林行政の業務実態と実行体制(1): 施業監督業務に着目して: 石崎涼子(森林総合研究所)ら
13:15	F2 日本海側多雪地環境への適応を伴う常緑広葉樹ユズリハの進化過程: 渡辺洋一(千葉大学)ら	C2 「森林」と「教育」- 「森林教育」を考えるために: 寺下太郎(愛媛大学大学院)	D2 UAVを用いた広葉樹天然林の資源調査: 竹中悠輝(精密林業計測株式会社)ら	A2 市町村森林行政の業務実態と実行体制(2): 県や外部組織の支援に着目して: 笹田敬太郎(森林総合研究所)ら
13:30	F3 セミ科昆虫の遺伝構造と森林樹木の分布変遷との関係: 湯本景将(筑波大学大学院)ら	C3 発表取消	D3 異なる施業履歴がUAV-SfMによるトドマツ個体サイズ計測に与える影響: 滝谷美香(道総研林業試験場)ら	A3 市町村森林行政の業務実態と実行体制(3): 情報システムの整備に着目して: 鹿又秀聡(森林総合研究所)ら
13:45	F4 Effects of elevated temperature on survival and growth of <i>Betula ermanii</i> two years after transplantation: AYE MYAT MYATPAING(東京大学)ら	C4 森林教育研究の動向と課題: 大石康彦(森林総合研究所多摩森林科学園)ら	D4 UAV-LiDARデータからの樹幹抽出手法の検討: 平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)ら	A4 森林経営管理制度における広域連携の役割一埼玉県秩父地域を事例に: 江田星来(筑波大学)ら
14:00	F5 多数のヒノキ検定林における成長形質に対する遺伝・環境交互作用の影響: 高橋優介(森林総合研究所林木育種センター)ら	討論・調整	D5 UAV-LiDARの反射強度を利用した境界測量手法の検討: 井貝紀幸(豊田市役所)	A5 2000年代以降における全国公設林業試験研究機関の組織運営と研究の動向: 木村憲一郎(福島県林業研究センター)ら
14:15	討論・調整	C5 小学校における豪雨被災後の教育活動の変化: 市野瀬愛(九州大学大学院)ら	討論・調整	討論・調整
14:30	F6 長期測定データから気候変動が北方針葉樹3種の苗木に及ぼす影響を考える: 後藤晋(東京大学)ら	C6 森林教育プログラムの効果測定における分析手法: 山田亮(北海道教育大学岩見沢校)ら	D6 航空機LiDARによる単木樹種分類の汎用性の検討IV: 深層学習による精度評価: 林勇輝(名古屋大学)ら	A6 森林環境譲与税のPES化に対する市区町村の意向について: 高橋卓也(滋賀県立大学)ら
14:45	F7 スギ精英樹の成長特性における競争感受性と樹冠構造の系統間差: 松下通也(森林総合研究所林木育種センター)ら	C7 農業高校における森林・林業教育課程の現状と課題: 阿部真弥(岩手大学)ら	D7 航空LiDARによる壮齢ヒノキ林の下層植生の分布把握: UAVによる検証: 福田航希(岐阜大学)ら	A7 自治体独自の森林環境税が獣害対策としての里山林整備にもたらす影響: 岸岡智也(金沢大学)ら
15:00	F8 スギのさし穂の長さが発根性とコンテナ苗の成長に及ぼす影響: 大平峰子(森林総合研究所林木育種センター)ら	C8 高等学校における森林・林業教育の教育内容の分析- 専門学科・コースの事例: 井上真理子(森林総合研究所)ら	D8 航空レーザを使用した樹種分類の検討- 滋賀県鈴鹿山脈北部での事例: 和田のどか(岐阜大学/中日本航空株式会社)ら	A8 保安林制度と林業経営との関係: 常陸太田市民有水源かん養保安林に注目して: 加藤葉月(筑波大学)ら
15:15	F9 グイマツ母樹への酸化型グルタチオン施用が結実率に与える影響: 今博計(北海道立総合研究機構)ら	討論・調整	D9 航空機LiDARによる森林管理手法の開発- DBH推定の誤差要因解析: 神野航(名古屋大学)ら	A9 NPO法人に施業委託した森林所有者の実態と経営意向: 平山智貴(九州大学)ら
15:30	F10 若齢ヒノキの水分ストレスによる種子生産の可能性: 福田拓実(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら	C9 林業大学の比較による林業教育に関する考察: 小菅良豪(にちなん中国山地林業アカデミー)	D10 深層学習による森林情報解析- 航空機LiDAR点群による解析手法の検討: 三浦一将(名古屋大学大学院)ら	A10 豪雨被災地における林研グループ活動の役割- 福岡県朝倉地域を事例に: 宮木周平(九州大学)ら
15:45	F11 マツヘリカメムシがクロマツの種子生産性に及ぼす影響: 松永孝治(森林総合研究所林木育種センター九州育種場)ら	C10 森林科学を学べる四年制大学の現状: 杉浦克明(日本大学)ら	討論・調整	討論・調整
16:00	討論・調整	C11 4年制大学における森林科学教育の変化: 枚田邦宏(鹿児島大学)ら		
16:15		C12 高等学校農業の教員免許所得可能な大学における林産系の研究内容: 東原貴志(上越教育大学)ら		
16:30		討論・調整		
16:45				

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表） 3月28日 午後 2/2

会場		Room 6	Room 7	Room 8
開始時刻	風致・観光1	T3 森林の放射能研究	T4 樹木根の成長と機能	S5 生理部門企画シンポジウム「動的な細胞壁」とポスター紹介・討論
13:00	B1 COVID-19の流行による都市緑地利用の変化: ビッグデータによる把握:金慧隣(北海道大学)ら	趣旨説明	趣旨説明	S5-1 環境ストレス応答における植物細胞壁ペクチンの機能:岩井宏暁(筑波大学)
13:15	B2 国立公園への訪問動機に対する訪問者の属性的影響:陳碧霞(琉球大学)ら	T3-1 福島第一原発事故後10年間における森林土壌中の放射性セシウム分布の変動:眞中卓也(森林総合研究所)ら	T4-1 地中レーダ法を用いたアカマツ二次林における立木間中央の根系推定:今若舞(兵庫県立大学)ら	S5-2 植物の凍結適応メカニズム:細胞壁の観点から:高橋大輔(埼玉大学)
13:30	B3 知床国立公園におけるシャトルバスの運行に対する利用者の選好:八尋聡(北海道大学大学院農学院)ら	T3-2 スギ樹幹基部における雨水及び溶解態 ¹³⁷ Csの浸透フラックスと樹幹流の影響:飯田光(筑波大学大学院)ら	T4-2 3Dレーザースキャナと手動計測により再構築されたクロマツ根系の比較:藤堂千景(兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター)ら	S5-3 スギの葉における貯水性-細胞壁への水分子の吸着に着目して-:東若菜(神戸大学)
13:45	B4 森林政策による感情発現とITによるガイドの効果について:柴田吾吾(上智大学)ら	T3-3 福島県の森林における土壌含水率の変化による空間線量率の変化:中西美夕(筑波大学)ら	T4-3 SfMによる樹木根系の三次元再構成におけるノイズ処理の検討:岡本祐樹(兵庫県立大学)ら	
14:00	討論・調整	討論・調整	討論・調整	
14:15	B5 生物多様性に関する国際プロセス:昆明COP15とランドスケープ・アプローチ:香坂玲(名古屋大学)	T3-4 原発事故後更新した10年生コナラ株内における ¹³⁷ Cs濃度のばらつき:小川秀樹(福島県林業研究センター)ら	T4-4 自動スキャナ法を用いたカラマツの細根フェノロジーと環境要因の解明:田村梓(信州大学大学院)ら	
14:30	B6 立山ルートにおける写真、地図、記載文等のGISを応用した人為的攪乱の解析:大宮徹(富山県森林研究所)	T3-5 数値標高モデルを用いたコナラ当年枝の ¹³⁷ Cs移行係数の空間解析:小松雅史(森林総合研究所)ら	T4-5 山岳標高差に対する樹木細根の水獲得戦略:常緑樹と落葉樹の樹種間比較:増本泰河(信州大学)ら	
14:45	B7 京都市鞍馬におけるサンショウの自給的利用:奥野真木保(京都大学)ら	T3-6 森林内の放射性セシウムの残留が住民の森林活動に及ぼす心理的影響:藤野正也(福島大学)ら	T4-6 近赤外反射画像を用いたヒノキ細根の枯死判定:中路達郎(北海道大学)ら	
15:00	討論・調整	総合討論	T4-7 樹木細根の機能的分類:可視-近赤外分光法からの探索:牧田直樹(信州大学)ら	
15:15	B8 公民連携による新たな別荘地管理-長野県長和町のマスタープランを事例に:田中伸彦(東海大学)ら	総合討論	総合討論	
15:30	B9 別荘地管理における森林景観整備の必要性-群馬県嬭恋村を事例に:入江彰昭(東京農業大学)ら			
15:45	B10 北軽井沢の山荘文化とコミュニティ形成:宮林茂幸(東京農業大学)ら			
16:00	B11 コロナ禍を踏まえた別荘地開発・管理に関する一考察-群馬県嬭恋村を事例に:木俣知大(上田女子短期大学)ら			生理
16:15	討論・調整			G1 スギにおける樹幹のCO ₂ 放出速度と肥大成長及び樹幹の形態的要素との関係:平谷理人(信州大学)ら
16:30				G2 木本植物の光障害防御機構の種間比較:辻祥子(京都大学)ら
16:45				討論・調整

研究発表題目 (部門別口頭発表) 3月29日 午前 1/2

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4
開始時刻	経営2	林政2	動物・昆虫1	造林1
9:00	D11 深層学習を用いた時系列航空写真の解析II:米康充(島根大学)ら	A11 地域産材の利用拡大をめぐる地域林業関係者の問題認識の考察:石佳凡(早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科)ら	L1 発表取消	E1 岐阜県内で生産された培土を用いたヒノキ実生コンテナ苗の育苗の可能性:田口木乃霞(岐阜県立森林文化アカデミー)ら
9:15	D12 航空写真DSMを用いたスギ人工林地位指数推定モデルの開発:宮原史浩(宮崎大学大学院)	A12 国産材産地形成における木材流通研究の動向:茂木もも子(一般財団法人林業経済研究所)ら	L2 シカによるサラサドウダンの剥皮被害の発生時期と樹皮の再生状況:阪上宏樹(九州大学)ら	E2 人工光利用による苗木育成の試み:下山真人(株式会社 大林組)ら
9:30	D13 RGB解析を用いた生育状況判断に関する研究:溝田陽子(株式会社大林組)ら	A13 福島原発事故後の九州におけるクスギ原木の移出構造～三県の比較を通して～:石原昌宗(九州大学大学院)ら	L3 石灰石鉱山の捨石堆積場におけるニホンウサギの環境選択:穂刈裕一(岩手大学)ら	E3 施肥量がセンダン苗の成長に及ぼす影響:青木哲平(熊本県林業研究・研修センター)ら
9:45	D14 Global forest cover changes in the past 60 years:エストケロナルド(森林総合研究所)	A14 発表取消	討論・調整	討論・調整
10:00	D15 衛星データと深層学習を用いた、全県森林変化域検出の試み:渡邊学(東京電機大学)ら	討論・調整	L4 オガサワラオオコウモリの利用する森林環境の評価と将来予測:鈴木創(東京農工大学連合大学院/ NPO法人 小笠原自然文化研究所)	E4 電動ドリルによるトドマツコンテナ苗用植栽穴の穿孔条件:近藤佳秀(北海道立総合研究機構林産試験場)ら
10:15	討論・調整	A15 戦時中の薪炭生産の計画－鳥取県旧大山村の事例－:小林正紘(鳥取大学大学院)ら	L5 中型猛禽類の営巣木選択－樹木をどのように計測するか－:工藤琢磨(森林総合研究所東北支所)	E5 徒長しすぎたカラマツコンテナ苗の植栽後の形状比回復プロセス:来田和人(北海道立総合研究機構林業試験場)ら
10:30	D16 ケーブルカメラを用いた森林計測-間伐木の抽出精度-:今枝大(名古屋大学)ら	A16 ハチ追いに関わるローカルルールの地域間比較:新開一馬(名古屋大学大学院)ら	L6 都市林の鳥類組成:景観構造、林分構造、果実資源量の相対的重要性:正木隆(森林総合研究所)ら	E6 カラマツ大苗植栽による下刈り回数削減の可能性:大矢信次郎(長野県林業総合センター)ら
10:45	D17 SfM解析を用いた広葉樹立体モデル作成時のプレ画像除去による精度変化:中川真海(信州大学大学院)ら	A17 森林化学産業の展望－木質バイオマスの新用途についての課題整理:峰尾恵人(京都大学大学院)ら	討論・調整	E7 下刈り省力化完了から5年が経過したスギの成長と競合状態は良好に保たれた:城田徹央(信州大学)ら
11:00	D18 拡張現実感(AR)を応用した単木情報表示技術の検討:藤平光希(信州大学)ら	A18 Jクレジット制度における森林分野の現状:福嶋崇(亜細亜大学)	L7 フェンスの設置がミツバチのフライウェイに与える効果:松沢友紀(名古屋大学)ら	討論・調整
11:15	D19 森林内を飛行するドローンによる自動森林調査法の確立:加藤顕(千葉大学)ら	A19 企業による森林づくり－脱炭素経営に向けた取組の広がり関連して:藤原敬(一般財団法人林業経済研究所)	L8 熊本県合志市の若齢クロマツ林分における、マツヘリカメムシの発生消長:原亮太郎(九州大学大学院)ら	
11:30	D20 全天球カメラを用いた立木計測II－SLAMを用いた計測精度の検証－:坪田和也(島根大学)ら	討論・調整	L9 クロマツの組織温度から見る、マツヘリカメムシの体温調節:北嶋諒太郎(九州大学)ら	
11:45	討論・調整		討論・調整	

研究発表題目 (部門別口頭発表) 3月29日 午前 2/2

会場	Room 5	Room 6	Room 7	Room 8
開始時刻	風致・観光2		立地	微生物
9:00	B12 公共緑地の市民協働による管理運営の促進・阻害要因:愛甲哲也(北海道大学)ら		I1 地表面の被覆状態が森林土壌団粒の再生に及ぼす影響:宇津木佑夏(信州大学大学院)ら	M1 Pan-genome and whole-genome resequencing reveals genetic diversity and stress responses of <i>Cenococcum geophilum</i> : 李超鋒(東京大学)ら
9:15	B13 つくば市近郊の森林ボランティアの現状とその継続阻害要因:武正憲(筑波大学)ら		I2 枯死木の炭素貯留量に影響を及ぼす環境要因の解析:川西あゆみ(森林総合研究所)ら	M2 <i>Cenococcum</i> 属の自然変異を利用した外生菌根形成に関与する遺伝子の探索: 練春蘭(東京大学)ら
9:30	B14 風景地保護協定制度に対する認識と課題 ~阿蘇国立公園を事例として~:町田怜子(東京農業大学)ら		I3 針広混交林構成樹種の葉と細根が初期分解中に放出するプロトン量:柵木香奈穂(名古屋大学)ら	M3 Transcriptome responses of poplar roots to the infection of <i>Cenococcum geophilum</i> in the early stage:劉穎(東京大学)ら
9:45	討論・調整	植物生態1	I4 溪流における有機物の貯留、分解の流路内変動及び季節間変動:田中熙一(九州大学)ら	M4 Identification of microRNAs involved in ectomycorrhiza formation in <i>Populus tomentosa</i> : 陶媛勲(東京大学)ら
10:00	B15 中部山岳国立公園における協働による登山道整備に関する研究:堀彰穂(名古屋大学大学院)ら	H1 モウソウチクは実生更新できるか?: 高知県土佐市における3年間の調査から:小林慧人(森林総合研究所関西支所)ら	討論・調整	討論・調整
10:15	B16 国立公園の研究にみる協働・市民参加の動向に関する試論:藍場将司(名古屋大学大学院)ら	H2 東京大学愛知赤津サイトにおけるコナラ種子の落下特性:澤田田晴(東京大学)ら		M5 Culturable endophytic fungi of <i>Cryptomeria japonica</i> roots among man-made forests along a latitudinal gradient:松田陽介(三重大学大学院)ら
10:30	B17 住民と行政の連携による草地の管理-北九州国定公園平尾台の野焼きを事例に:川本明佳里(名古屋大学大学院)ら	H3 コナラ二次林におけるナラ枯れ後のいくつかの樹種の成長特性について:今井雅治(龍谷大学)	防災・水文1	M6 Diversity and assemblage patterns of soil nematodes in <i>Cryptomeria japonica</i> plantations:北上雄大(三重大学大学院)ら
10:45	B18 京都市鞍馬の里山再生プロジェクトにおける地域参加型研究の試み:田中慶太(京都大学)ら	討論・調整	J1 スギ人工林における樹幹離脱流の流下特性:白木克繁(東京農工大学)ら	M7 Community assembly of rhizosphere fungi and bacteria along environmental gradients in <i>Cryptomeria japonica</i> plantations:小長谷啓介(森林総合研究所)ら
11:00	討論・調整	H4 個体ベース森林動態モデルによる針広混交林の再現:佐藤永(海洋研究開発機構)ら	J2 樹液流計測における校正の重要性:藤目直也(東京大学)ら	討論・調整
11:15		H5 滋賀県甲賀市水口町における森林植生の変化について:安在森祐(龍谷大学)	J3 立木根鉢の風に対する力学的反応:上村佳奈(信州大学)ら	M8 カラマツ苗木における乾燥と失葉処理時の葉と根系の病害抵抗性:和田尚之(北海道立総合研究機構林業試験場)ら
11:30		H6 比叡山大宮川上流部における溪流沿いの植生:小木曾遼(京都大学)ら	討論・調整	M9 ナラ枯れがコナラ枯死木の分解・菌類群集に与える影響:深澤遊(東北大学)ら
11:45		討論・調整		討論・調整

研究発表題目（部門別口頭発表） 3月29日 午後 1/2

会場	Room 1	Room 2	Room 3	Room 4
開始時刻	経営3	林政3	動物・昆虫2	造林2
14:15	D21 人工林における毎木調査の効率化を目指した立木サイズ推定手法の検討:江口則和(人間環境大学)ら	A20 日本における森林の多面的利用を促す制度的現状と課題:平野悠一郎(森林総合研究所)	L10 ナラ枯れの原因は究明されたのか?:小林正秀(京都府森林技術センター)	E8 苗畑におけるコナラの竹筒播種試験:星野大介(森林総合研究所)ら
14:30	D22 地上レーザスキャナーによる広葉樹の採材と利用率の分析:小谷英司(森林総合研究所)ら	A21 日本における国有林・民有林の広域分布特徴の地理的解析:松浦俊也(森林総合研究所)	L11 カシノナガキクイムシ成虫を用いた薬剤感受性検定法の構築:松本剛史(森林総合研究所)ら	E9 山腹崩壊跡地で成長がよい窒素固定植物の特性と立地条件の検証:小林真(北海道大学)ら
14:45	D23 木材価格を基にした広葉樹林価格の推定の試み:齊藤哲(森林総合研究所 関西支所)ら	A22 沖縄県のフクギ屋敷林の持続可能な管理において住民合意形成に関する研究:山崎澤二(琉球大学)ら	L12 寄主の樹冠を模したトラップによるカシノナガキクイムシ誘引の試み:山崎理正(京都大学)ら	E10 小規模持続型択伐人工林 (SSS) システムの実行可能性:水永博己(静岡大学)ら
15:00	D24 DEMデータを用いた高性能林業機械使用基準マッピング:唐澤亮(信州大学)ら	A23 オオヒシクイ自然の権利訴訟が社会へ与えた影響:ボンドハンナ(筑波大学)ら	L13 Strongly exclusive distribution with putative character displacement in two flying stag beetles:張勝男(東京大学)ら	討論・調整
15:15	D25 森林の持つ多面的機能の統合的評価法に関する一考察:納富信(早稲田大学)ら	A24 半自然草原の文化的価値の発見:八巻一成(森林総合研究所)	討論・調整	E11 PITタグを用いて推定したトドマツ林に生育するミズナラの動物種子散布:中西敦史(森林総合研究所)ら
15:30	討論・調整	討論・調整	L14 アラゲキクラゲ栽培における線虫病について:津田格(岐阜県立森林文化アカデミー)ら	E12 早池峰山のアカエゾマツ南限自生地における主要構成種の個体成長と動態:浅瀬石育吹(岩手大学)
15:45			L15 土壌由来の昆虫病原性線虫のマツノマダラカミキリ幼虫に対する殺虫効果:小澤壮太(森林総合研究所)ら	E13 絶滅危惧樹木トガサワラの四国における分布と立地環境:安藤暁子(林野庁四国森林管理局)ら
16:00			L16 <i>Bacillus thuringiensis</i> Cry toxins with insecticidal activity against pinewood nematode:郭雅潔(東京大学)ら	E14 絶滅危惧樹木トガサワラが天然更新する環境条件:酒井敦(森林総合研究所)ら
16:15			討論・調整	討論・調整

研究発表題目（部門別口頭発表） 3月29日 午後 2/2

会場	Room 5	Room 6	Room 7	Room 8
開始時刻	利用	植物生態2	防災・水文2	
14:15	K1 地域持続循環林業のための事業デザイン手法:仁多見俊夫(東京大学大学院)	H7 個葉のガス交換および樹液流の測定に基づくスギの樹冠コンダクタンスの比較:田中亮志(東京農工大学)ら	J4 山地災害を抑制するための森林管理と対策に関する言説レビュー:佐藤宣子(九州大学)	
14:30	K2 ドローンとディープラーニングを用いた森林情報解析システムの開発:大西信徳(京都大学)ら	H8 枝の凍結がもたらす針葉樹の新たな通水阻害メカニズム:種子田春彦(東京大学)ら	J5 降雨指標に基づく山地災害の変化に関する予備的検討:執印康裕(九州大学)	
14:45	K3 NFCタグによる立木カタログ化で里山広葉樹材の活用を展開する:黒田慶子(神戸大学)ら	H9 切断処理に伴う細根の生死判定のばらつきの変化:鈴木大介(兵庫県立大学)ら	J6 実効雨量を用いた森林流域における降雨流出のモデル化:小杉賢一朗(京都大学)ら	特用林産
15:00	K4 木登りロボットのための閉ループベルト巻き付けによる昇降機構の開発:戸松拓海(日本工業大学大学院)ら	H10 Is the tensile strength of fine roots predictable with functional traits among cool-temperate woody species?:曾瑞琪(北海道大学)ら	討論・調整	N1 設定後40年経過したマツタケ試験地の林況-立木・土壌・発生量の変化-:古川仁(長野県林業総合センター)ら
15:15	討論・調整	討論・調整	J7 火山噴出物由来の地質を持った0次谷における流出継続時間の縦断変化:芳賀弘和(鳥取大学)ら	N2 クロモジの伐採高が伐採後の萌芽発生におよぼす影響:高橋輝昌(千葉大学)ら
15:30	K5 遠隔操縦式刈払い機による下刈り作業工程と植栽木の成長への影響:渡辺一郎(地方独立行政法人北海道立総合研究機構林業試験場)ら		J8 断層構造をもつ付加体山地における基岩内地下水の流動特性:正岡直也(京都大学)ら	N3 ウルシの内樹皮および樹脂道の形成過程:二社谷悠太(京都大学)ら
15:45	K6 スマートウォッチを活用した林業現場における作業モニタリング技術の開発:佐々木重樹(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら		J9 熱赤外動画を用いた源流域河道沿いの湧水マッピング:岩崎健太(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	討論・調整
16:00	K7 発表取消		J10 地下水安定同位体比から見た大陸スケールの水循環:勝山正則(京都府立大学大学院)	
16:00	討論・調整		討論・調整	

ポスター発表一覧 1/2

#印は学生ポスター賞の審査対象

ポスター番号	部門	ポスター番号	部門	ポスター番号	部門	ポスター番号	部門	ポスター番号	部門
P-001 #	林政	P-057 #	経営	P-113	造林	P-169	遺伝・育種	P-225	生理
P-002 #		P-058		P-114		P-170		P-226 #	
発表取消		P-059		P-115		P-171		P-227	
P-004 #		P-060		P-116		P-172		P-228 #	植物生態
P-005 #		P-061		P-117		P-173		P-229 #	
P-006 #		P-062		P-118		P-174		P-230 #	
P-007 #		P-063		P-119		P-175		P-231 #	
P-008 #		P-064		P-120		P-176		P-232 #	
P-009		P-065		P-121		P-177		P-233 #	
P-010		P-066		P-122		P-178		P-234 #	
P-011		P-067		P-123		P-179		P-235 #	
P-012		P-068		P-124		P-180		P-236 #	
P-013		P-069		P-125		P-181		P-237 #	
P-014		P-070		P-126		P-182		P-238 #	
P-015		P-071		P-127		P-183		P-239 #	
P-016		P-072		P-128		P-184		P-240 #	
P-017		P-073		P-129		P-185		P-241 #	
P-018		P-074		P-130		P-186		P-242 #	
P-019		P-075		P-131		P-187		P-243 #	
P-021 #	風致・観光	P-076	P-132	P-188	P-244 #				
P-022 #		P-077	P-133	P-189	P-245 #				
P-023 #		P-078	P-134	P-190	P-246 #				
P-024 #		P-079	P-135	P-191	P-247 #				
P-025 #		P-080	P-136	P-192	P-248 #				
P-026 #		P-081	P-137	P-193	P-249 #				
P-027 #		P-082	P-138	P-194	P-250 #				
P-028		P-083	P-139	P-195	P-251 #				
P-029		P-084	P-140	P-196	P-252 #				
P-030		P-085	P-141	P-197	P-253				
P-031	教育	P-086	P-142	P-198	P-254				
P-032		P-087	P-143	P-199 #	P-255				
P-033		P-088	P-144	P-200 #	P-256				
P-034 #		P-089	P-145	P-201	P-257				
P-035 #		P-090	P-146	P-202 #	P-258				
P-036		P-091	P-147	P-203 #	P-259				
P-037 #		P-092	発表取消	P-204	P-260				
P-038		P-093	P-149	P-205 #	P-261				
P-039		P-094	P-150	P-206	P-262				
P-040		P-095	P-151	P-207 #	P-263				
P-041 #		経営	P-096	P-152	P-208	P-264			
P-042 #	P-097 #		P-153	P-209	P-265				
P-043 #	P-098 #		P-154	P-210 #	P-266				
P-044 #	P-099 #		P-155	P-211					
P-045 #	P-100 #		P-156	P-212					
P-046 #	P-101 #		P-157	P-213 #					
P-047 #	P-102 #		P-158	P-214					
P-048 #	P-103 #		P-159 #	発表取消					
P-049 #	P-104 #		P-160 #	P-216 #					
P-050 #	P-105 #		P-161 #	P-217					
P-051 #	P-106 #		P-162 #	P-218 #					
P-052 #	P-107 #		P-163 #	P-219 #					
P-053 #	P-108 #	P-164 #	P-220 #						
P-054 #	P-109 #	P-165 #	P-221 #						
P-055 #	P-110 #	P-166 #	P-222 #						
P-056 #	P-111	P-167 #	P-223 #						
		P-168 #	P-224						

ポスター発表一覧 2/2

#印は学生ポスター賞の審査対象

ポスター番号	部門	ポスター番号	部門	ポスター番号	部門	ポスター番号	部門	ポスター番号	部門	
P-267 #	立地	P-323	防災・水文	P-379	利用	P-435	微生物	PP-01	JFR論文賞	
P-268 #		P-324		P-380		P-436		PP-02	JFR論文賞	
P-269 #		P-325		P-381		P-437		PP-03	日林誌論文賞	
P-270 #		P-326		P-382		P-438		KP-01	【学会企画2】 高校生 ポスター (タイトル一覧 はP.39)	
P-271 #		P-327		P-383		P-439		KP-02		
P-272 #		P-328		P-384 #		P-440		KP-03		
P-273 #		P-329		P-385 #		P-441		KP-04		
P-274 #		P-330		P-386 #		P-442		KP-05		
P-275 #		P-331		P-387 #		P-443		KP-06		
P-276 #		P-332		P-388 #		P-444		KP-07		
P-277		P-333		P-389 #		P-445		KP-08		
P-278		P-334		P-390 #		P-446 #		T1		KP-09
P-279		P-335		P-391 #		P-447 #		T2		KP-10
P-280		P-336		P-392 #	P-448	T3		KP-11		【学会企画3】 帰国留学生会員 アジアの林学会 (タイトル一覧 はP.41)
P-281		P-337		P-393	P-449 #			KP-12		
P-282		P-338		P-394	P-450 #		KP-13			
P-283		P-339		P-395	P-451		KP-14			
P-284		P-340		P-396	P-452		KP-15			
P-285		P-341		P-397	P-453		KP-16			
P-286		P-342		P-398	P-454		KP-17			
P-287		P-343		P-399	P-455		KP-18			
P-288		P-344		P-400	P-456		KP-19			
P-289		P-345		P-401	P-457		KP-20			
P-290		P-346		P-402	P-458		KP-21			
P-291		P-347		P-403	P-459	KP-22				
P-292		P-348		P-404	P-460	KP-23				
P-293		P-349		P-405	P-461	KP-24				
P-294		P-350		P-406	P-462	KP-25				
P-295		P-351		P-407	P-463	KP-26				
P-296	P-352	P-408	P-464	KP-27						
P-297	P-353	P-409	P-465	GP-01	【学会企画3】 帰国留学生会員 アジアの林学会 (タイトル一覧 はP.41)					
P-298	P-354	P-410	P-466	GP-02						
P-299	P-355	P-411	P-467	GP-03						
P-300 #	P-356 #	P-412	P-468 #	GP-04						
P-301 #	P-357 #	P-413	P-469 #	GP-05						
P-302 #	P-358 #	P-414 #	P-470	GP-06						
P-303 #	P-359 #	P-415 #	P-471 #	GP-07						
P-304 #	P-360 #	P-416 #	P-472 #	GP-08						
P-305	P-361 #	P-417 #	P-473 #	GP-09						
P-306 #	P-362	P-418 #	P-474 #	GP-10						
P-307 #	P-363	P-419 #	P-475 #	GP-11						
P-308 #	P-364	P-420 #	P-476 #							
P-309 #	P-365	P-421 #	P-477 #							
P-310 #	P-366	P-422 #	P-478							
P-311 #	P-367	P-423 #	P-479							
P-312 #	P-368	P-424	P-480							
P-313 #	P-369	P-425 #								
P-314 #	P-370	P-426 #								
P-315 #	P-371	P-427 #								
P-316 #	P-372	P-428								
P-317 #	P-373	P-429								
P-318 #	P-374	P-430								
P-319 #	P-375	P-431								
P-320 #	P-376	P-432								
P-321	P-377	P-433								
P-322	P-378	P-434								

研究発表題目（ポスター発表 P-001～P-040 林政、風致・観光、教育）

林政		風致・観光	教育
P-001 # 新潟県上越市不動産地区における集落合併の要因—人口分析による把握—:佐藤周平(東京農工大学大学院)ら	P-016 新聞記事データベースを用いた都市近郊林の状況調査:小田龍聖(森林総合研究所)	P-021 # 日本における巨木の持つ価値について:蔡寧馨(東京大学)ら	P-033 大学教員の専門とする森林科学の研究部門—四年制大学の状況:田中千賀子(武蔵野美術大学)ら
P-002 # 地域における薪ストーブの導入意識:森本峻輔(鳥取大学)ら	P-017 岐阜県山林行政機構の独立に関する覚え書き:山本伸幸(森林総合研究所)	P-022 # 浮世絵を資料とした江戸末期の樹木環境の推定復元:劉馨遥(東京大学)ら	P-034 # 森林科学を学べる四年制大学における専門科目の開設状況:三浦万由子(日本大学)ら
P-003 # 発表取消	P-018 歴史資料に基づく19世紀秋田の森林資源状況の分析:芳賀和樹(東京大学)	P-023 # Trial for recording giant trees with UAV images taken in multiple directions: Huang Kaili (三重大学)ら	P-035 # 森林科学を学べる四年制大学で取得可能な資格:水井英菜(日本大学大学院)ら
P-004 # 近世林業地の分類に対する考察:和田蒼大(鳥取大学)ら	P-019 絵葉書などの紙資料からみた山村・離島の変化:柴崎茂光(東京大学)	P-024 # 佐渡におけるSNSを用いた文化的生態系サービスの経済的評価:大庭隼(新潟大学)ら	P-036 海外における森林専門教育—アフリカ3か国を中心に—:岡田美香(林業経済研究所)ら
P-005 # 岐阜県銘木市における銘木の需給変化とその背景:高涵(東京大学)ら		P-025 # 地理空間情報を活用した観光地における災害リスクポテンシャルの可視化:阿部恭子(東京農業大学)ら	P-037 # 林業大学校に関する条例の考察:小川高広(京都大学)
P-006 # 岩手県産アカマツの消費者への認知度と住宅利用の実態:那須野まこ(岩手県立大学)ら		P-026 # 山小屋による山岳自然公園内の登山道維持管理:南アルプス国立公園の場合:内山雄介(東京農工大学大学院)ら	P-038 森林体験活動を行った児童における五感体験の記憶と森林への印象との関係:中村和彦(東京大学)
P-007 # Forests affected by climate change-induced migration and conservation strategy in Guadalcanal, Solomon Islands: Chacha Trevor (三重大学)ら		P-027 # 大雪山における登山道侵食防止マットの施工による実生の定着への影響:陳絵(北海道大学)ら	P-039 星の観察の森林体験学習への活用可能性:石橋整司(東京大学)
P-008 # 環境保全における「社会的評価ツール」の再検討:岸本楓雅(鳥取大学)ら		P-028 国立公園の利用は人々の幸福度を高めるか?—SNS分析による検証—:柴田嶺(新潟大学)ら	P-040 インスタントカメラを活用した生活形式スペクトルによる都市の自然観察:倉本宣(明治大学)ら
P-009 盛岡木材流通センターにおける広葉樹材の価格変動の分析:道中哲也(森林総合研究所)ら		P-029 国立公園の来訪者モニタリングにおける位置情報がないSNS投稿の有用性:久保田裕(名古屋大学大学院)ら	
P-010 銘木市におけるカンパ類素材価格の決定要因:嶋瀬拓也(森林総合研究所北海道支所)		P-030 失われゆく食用野生植物に関する地域知と継承意欲:福島県只見町を事例に:古川拓哉(森林総合研究所)ら	
P-011 小型ガス化熱電併給装置向け燃料チップの拠点での乾燥:横田康裕(森林総合研究所九州支所)ら		P-031 バッファゾーン整備に伴う木質資源利用の持続可能性:森野真理(吉備国際大学)ら	
P-012 三重県の林業事業体における作業日報の利用状況と課題:石川智代(三重県林業研究所)		P-032 一般住民の花粉症シーズン中の森林散策の実施状況:J-MICC Study大幸研究:森田えみ(森林総合研究所)ら	
P-013 伐採と造林の連携等に係るガイドラインの現段階—オレゴン州との比較から:大塚生美(森林総合研究所東北支所)			
P-014 不在村森林所有者の森林利用および所有継続の意向—他出者への聞き取り—:泉桂子(岩手県立大学)ら			
P-015 市民の声をどのように捉えればいいのか? 松本市森林再生実行会議の挑戦:小山泰弘(長野県林業総合センター)ら			

研究発表題目（ポスター発表 P-041～P-096 経営）

経営			
P-041 # 放置竹林整備対策の地域性と多様性:陳田(東京大学)ら	P-057 # レーザ計測による樹木の直径と材積の誤差検証:殷暁(信州大学)ら	P-073 GISと連携した施業評価ツールの開発: QGISプラグイン版:重永英年(森林総合研究所)ら	P-089 ALSデータとタイルポリゴンを使用した相対幹距と材積の推定:塩田廣美(京都府立大学大学院)ら
P-042 # Briquettes status and possibilities in Japan: Kolonel Christian (Tokyo University of Agriculture)	P-058 林地の伐採されやすさに影響する要因の近隣自治体間での比較:山田祐亮(森林総合研究所)ら	P-074 GISと連携した施業評価ツールの開発: webアプリ版:壁谷大介(森林総合研究所)ら	P-090 航空機LiDARのレーザーパルス地上到達率を用いたヒノキ過密林分の抽出:久田善純(岐阜県森林研究所)ら
P-043 # 分割時系列解析によるコミュニティ林業の森林保全効果の検証:太田みわ(九州大学)ら	P-059 山梨県南部町における公民連携木質バイオマスガス化発電の取り組み:佐藤孝吉(東京農業大学)ら	P-075 空中写真を用いた長期時系列点群データによる森林資源モニタリング:松英恵吾(宇都宮大学)ら	P-091 航空機LiDARによる森林管理手法の検討-間伐後のレーザー透過率評価:山本一清(名古屋大学)
P-044 # 地域森林計画から見る2000年以降の民有林の森林整備:查世昊(東京大学)ら	P-060 林業関連情報に基づく市町村の分類階層が地域の伐採材積推定に及ぼす影響:津田高明(地方独立行政法人北海道立総合研究機構)ら	P-076 UAVを用いたスギ人工林間伐後の樹冠成長の把握:飯田玲奈(群馬県林業試験場・宇都宮大学農学部)ら	P-092 人工衛星によるインドネシアゴム農園の落葉評価:曾根恒星(株式会社プリテス トン)
P-045 # 立地環境に基づく中低木種の分布予測:山下淳也(京都府立大学大学院)ら	P-061 公的森林計画における計画文の類似度比較の試行:富山啓介(東京大学)	P-077 SfMによる広葉樹林冠モデルを用いた林分平均樹高の推定:矢田豊(石川県農林総合研究センター)ら	P-093 森林伐採後の新たな土地利用の高分解能衛星画像によるAIを用いた判別:鷹尾元(森林総合研究所)ら
P-046 # 航空機レーザー計測と地形指標を用いた地位指数推定-糸島市を事例に-:寺田愛理(九州大学大学院)ら	P-062 山梨県南部町における公民連携木質バイオマスガス化発電所用の資源供給試算:吉野聡(東京農業大学)ら	P-078 skydioを使った画像計測による林内立木調査効率化に向けた基礎的検討:井筒憲司(株式会社エフバイオス)ら	P-094 正規化植生指数(NDVI)画像によるトドマツの葉中クロロフィル含量の推定:花岡創(森林総合研究所林木育種センター北海道育種場)ら
P-047 # LiDARデータと時系列空中写真を用いた地位指数推定手法の開発:吉田大智(新潟大学大学院)ら	P-063 森林における病虫害の拡散制御:伊高静(東京理科大学)	P-079 UAV計測による立木成長量の推定:木下紗綺(株式会社エフバイオス)ら	P-095 西日本における時系列Landsatデータに基づく反射率推定:田中真哉(森林総合研究所関西支所)
P-048 # 機械学習を用いたヒノキ林における地位指数の推定:向井花乃(京都府立大学大学院)ら	P-064 樹高計測値による胸高直径推定モデルにおけるパラツキ要因の解析:光田靖(宮崎大学)ら	P-080 UAV空撮データを用いたブナ林の樹冠セグメンテーション:村上拓彦(新潟大学)ら	P-096 時系列Landsat画像を利用した地域レベルの材積推定精度の評価:志水克人(森林総合研究所)ら
P-049 # デジタル航空写真DSMから得られた林冠高の変化と立地条件の関係:黒木俊太郎(鹿児島大学大学院)ら	P-065 針葉樹における樹幹の発達にともなう細りの変化:井上昭夫(近畿大学)ら	P-081 UAVを活用した北海道胆振東部地震による崩壊地の残存資源量の把握:古家直行(森林総合研究所北海道支所)	
P-050 # ドローンと航空レーザを用いた広葉樹林の分類:黒瀬海晴(京都府立大学)ら	P-066 関東中部地域の人工林モニタリングデータに基づく成長関数の選択:高橋正義(森林総合研究所)ら	P-082 UAVによる空中写真と点群を活用した高精度樹種判別に向けた基礎的検討:溝口知広(日本大学)ら	
P-051 # UAV空撮画像を用いたフェノロジーによる樹種分類:岩間大希(新潟大学)ら	P-067 ポロノイ分割による局所密度と単木の直径成長について:田中邦宏(森林総合研究所関西支所)ら	P-083 UAV-LiDARで樹幹の計測は可能か?-計測方法と林相が計測効率に与える影響-:星川健史(静岡県立農林環境専門職大学)ら	
P-052 # UAVによる樹幹抽出を通じたブナ林の立木本数把握方法の検討:稲月理央(新潟大学大学院)ら	P-068 単木距離独立モデルによる収穫予測手法の検討-四国地方のスギ林の事例-:福本桂子(森林総合研究所四国支所)ら	P-084 ドローンレーザデータによるスギ人工林の樹高計測:加治佐剛(鹿児島大学)ら	
P-053 # UAV空撮による森林計測手法の開発-LiDAR補正による計測精度評価-:吉田圭佑(名古屋大学)ら	P-069 Multi-temporal survival analysis of tree population in natural forest: Case in Chiba prefecture.:広嶋卓也(東京大学)ら	P-085 地上レーザとUAVを用いたスギ林分の樹高推定:齋藤英樹(森林総合研究所)ら	
P-054 # UAV搭載レーザスキャナによる森林計測点群中の樹幹抽出手法:齋藤優(日本大学)ら	P-070 主要針葉樹林および広葉樹林の地域別林齢-蓄積曲線の作成:北原文章(森林総合研究所)ら	P-086 TLSによる胸高直径の簡易推定:高橋與明(森林総合研究所九州支所)ら	
P-055 # Estimation of forest evapotranspiration using high resolution UAV-LiDAR data:張宇攀(筑波大学)ら	P-071 久万高原町スギ群状伐試験地における設置24年から60年の成長データ:豊田信行(海岳森林技術士事務所)	P-087 地上レーザ計測に基づくスギ・ヒノキ壮齡林でのGNSSの測位精度の検証:栗屋善雄(岐阜大学)ら	
P-056 # 地上レーザ測量による落葉樹林の葉密度空間分布の推定:松澤武志(静岡大学)ら	P-072 人工林固定試験地における長期的な成長推移:スギ・ヒノキ・カラマツの比較:西園朋広(森林総合研究所)ら	P-088 奥秩父山地における航空レーザデータを用いたササ稈密度の推定:梅木清(千葉大学)ら	

研究発表題目（ポスター発表 P-097～P-158 造林）

造林			
P-097 # 光波長変換赤色発光フィルムがカラマツコンテナ苗の成長に与える影響: 強瀬洋(北海道大学)ら	P-113 2年生ブナ実生の成長量と葉中全窒素の関係: 塚原雅美(新潟県森林研究所)ら	P-129 シカ高密度地域における防護柵保守の事例 - 柵はいつまでもつか?: 大谷達也(森林総合研究所四国支所)ら	P-145 北海道におけるシラカンバ人工林の直径成長に影響する要因: 内山和子(北海道立総合研究機構林業試験場)ら
P-098 # 酢酸施用がスギコンテナ苗の乾燥耐性に与える影響: 小林裕子(東京大学)ら	P-114 根ざしによるセンダン苗育成の試み: 安達直之(島根県中山間地域研究センター)ら	P-130 ニホンジカ防除のための柵用ネットの強度問題と改善策: 大場孝裕(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター)ら	P-146 北東北の古い植栽試験地のデータからみた落葉広葉樹数種の成長特性: 梶本卓也(新潟大学)ら
P-099 # スギ中苗植栽後3年間のススキ型および非ススキ型競合植生による被圧効果: 原谷日菜(宮崎大学)ら	P-115 肥料の種類がセンダンの苗の成長に与える影響: 横尾謙一郎(熊本県林業研究・研修センター)ら	P-131 北海道における地がきカンパリの施業適地の推定: 津山幾太郎(森林総合研究所北海道支所)ら	P-147 タイにおけるチーク人工林の地上部と地下部バイオマス: 田中憲蔵(国際農林水産業研究センター)ら
P-100 # 下刈り省略試験地における被圧に対するスギ特定母樹4系統の反応: 森脇佑太(宮崎大学)ら	P-116 積雪地帯における早生樹センダンの森林造成技術の開発: 向野峻平(石川県農林総合研究センター林業試験場)ら	P-132 植栽苗木の成長予測を目指したマルチスペクトル画像の活用法の検討: 菅井徹人(森林総合研究所北海道支所)ら	P-148 発表取消
P-101 # 株立ちした広葉樹の樹冠可塑性と幹傾斜: 大野田直弥(信州大学)ら	P-117 異なるスギ母樹系統及び個体から採取した種子の発芽率と選別機による充実率: 藤井栄(徳島県立農林水産総合技術支援センター)ら	P-133 択伐後の伐根周囲に植栽したトマツ大苗の生存と樹高成長: 尾張敏章(東京大学)ら	P-149 マブリィ (タブレット3Dスキャナ)を用いた広葉樹毎木調査の精度評価: 上村真由子(日本大学)ら
P-102 # シラカンバ立木個体における偽心の発生条件からみた育林方法: 仲谷朗(北海道大学)ら	P-118 空中挿し木及びコンテナ直挿しによるスギ挿し木苗早期育成のための育苗環境: 伊藤哲(宮崎大学)ら	P-134 植栽密度の異なるスギ若齢林におけるUAV空撮画像を用いた優占樹種の評価: 野口麻穂子(森林総合研究所東北支所)ら	P-150 九州産スギ6品種の成長と窒素利用様式: 榎木勉(九州大学)ら
P-103 # アカマツ上木の択伐跡地における2年目の広葉樹の更新: 山崎千種(信州大学)ら	P-119 コンテナの側面遮光がスギコンテナ苗の成長へ及ぼす影響: 阿部森也(茨城県林業技術センター)ら	P-135 下刈り時期の違いがスギ植栽木の初期成長および競合植生に与える影響: 山川博美(森林総合研究所九州支所)ら	P-151 14年生スギ密度試験区における樹冠の状況: 松本純(大分県)ら
P-104 # 旧新炭ブナ林における樹木の空間分布情報を用いた天然更新予測モデリング: 和泉柚子葉(新潟大学)ら	P-120 スギコンテナ苗において、適度に形成された根鉢を識別するしきい値: 齋藤隆実(森林総合研究所)ら	P-136 高知県嶺北地域におけるスギコンテナ苗の初期成長に対する下刈りの影響: 米田令仁(森林総合研究所四国支所)ら	P-152 スギ人工林の生産力の違いにおける樹冠構造の重要性について: 小野田雄介(京都大学)ら
P-105 # ブナ二次林における土壌・光環境がブナ天然更新に及ぼす影響: 秋田大輝(新潟大学)ら	P-121 スギコンテナ苗の植栽時におけるグルタチオン等肥料施用の影響: 奥田史郎(森林総合研究所)ら	P-137 下刈り省略下のスギ苗木の成長に樹冠表面積と形状比が及ぼす影響: 山岸極(宮崎大学)ら	P-153 九州地方のスギ・ヒノキ人工林における間伐後の形状比と樹冠長率の変化: 荒木真岳(森林総合研究所)ら
P-106 # 人工林伐採跡地の植生発達に伴う森林性ネズミによる堅果運搬場所の変化: 大野友揮(宮崎大学)ら	P-122 カラマツコンテナ苗の育苗における施肥内容の検討: 二本松裕太(長野県林業総合センター)ら	P-138 筋残し刈り, 初期3年刈り, 隔年刈りと植栽後5年間のスギの成長: 八木貴信(森林総合研究所九州支所)ら	P-154 四国地方のヒノキ人工林における間伐後の形状比と樹冠長率の変化: 宮本和樹(森林総合研究所)ら
P-107 # 島根県のコウヨウザン造林地におけるノウサギの被害: 田中慈(島根大学)ら	P-123 ヒノキ実生コンテナ苗の植栽1年目の成長に及ぼす育苗の影響: 茂木靖和(岐阜県森林研究所)ら	P-139 コナラ林伐採後のホオノキ実生の分布と生残: 杉田久志(富山県農林水産総合技術センター森林研究所)ら	P-155 将来木施業を行う40年生ヒノキ人工林における間伐時の選木: 太田敬之(森林総合研究所)ら
P-108 # 房総半島のナラ枯れ被害地における下層植生に対するシカの影響: 加藤大樹(東京大学)ら	P-124 少雪寒冷地域における晩秋植栽がヒノキ実生コンテナ苗の活着に及ぼす影響: 渡邊仁志(岐阜県森林研究所)ら	P-140 超高密度トマツ前生稚樹群の上木風倒後19年間の動態: 角田悠生(地方独立行政法人北海道立研究機構)ら	P-156 クリーンラー若齢人工林における樹高成長曲線の構築と樹高分布の推定: 大野泰之(北海道立総合研究機構)ら
P-109 # 広葉樹植栽木への食害傾向は低木層の刈払いによって異なるのか: 羽田珠里(宮崎大学)ら	P-125 傾けて植えたスギ大苗の樹形回復について: 野宮治人(森林総合研究所九州支所)ら	P-141 択伐後のヒバ林における残存個体の成長に影響する要因: 榎間岳(森林総合研究所)ら	P-157 山梨県におけるカラマツ高齢人工林に対応した樹高成長曲線の修正と現況: 長谷川喬平(山梨県森林総合研究所)ら
P-110 # クマ剥ぎがスギ人工林の針広混交林化に及ぼす影響: 藤井景太(新潟大学)ら	P-126 ウルシ1年生コンテナ苗の山出し後3年間の成長: 白旗学(岩手大学)ら	P-142 天然生針広混交林の択伐施業地における40年間の変化: 吉田俊也(北海道大学)ら	P-158 反復調査データによる地位指数曲線の検証: 伊藤幸介(新潟県森林研究所)ら
P-111 オノエヤナギ挿し穂の関東域での3年目の成長: 上村章(森林総合研究所)	P-127 高知県土佐清水市幸川山国有林におけるコウヨウザンの萌芽更新: 磯田圭哉(森林総合研究所林木育種センター)ら	P-143 東日本大震災後の海岸防災林再生地に植栽されたコナラ苗木の6年間の生長: 高橋一秋(長野大学)ら	
P-112 オノエヤナギにおける挿し穂の太さが成長量等に与える影響: 矢野慶介(森林総合研究所林木育種センター東北育種場)ら	P-128 ツリーシェルターを途中で外したコウヨウザンの成長動態: 青田勝(大分県農林水産研究指導センター)ら	P-144 愛知県数地点におけるトチノキの成長解析: 橋本啓史(名城大学)ら	

研究発表題目 (ポスター発表 P-159~P-212 遺伝・育種、生理)

遺伝・育種		生理	
P-159 # <i>Shorea macrophylla</i> の成長に関する深層学習を用いたゲノム予測モデルの開発:阿久津春人(筑波大学)ら	P-175 遺伝・空間情報を活用して次代検定の精度改良を図る:石塚航(北海道立総合研究機構林業試験場)ら	P-191 ヒノキ球果の採取適期の探索:木村恵(森林総合研究所林木育種センター)ら	P-197 早期心材形成樹種における木部形成と心材形成の関係:梅林利弘(秋田県立大学)ら
P-160 # Comparison of linkage maps among three Cupressaceae species (sugi, hinoki and hiba):DOGANGULIZ(新潟大学)ら	P-176 気候要素の違いがスギの成長パターンに及ぼす影響の評価:栗田学(森林総合研究所林木育種センター関西育種場)ら	P-192 グイマツ種子の成熟時期の個体間変異:生方正俊(森林総合研究所林木育種センター北海道育種場)ら	P-198 イチョウにおける形成層活動および二次木部形成の季節性:工藤佳世(秋田県立大学)ら
P-161 # ブナの表現形質に関する一塩基多型を用いたゲノムワイド関連解析:藤森悠菜(名古屋大学大学院)ら	P-177 スギの応力波伝播速度における遺伝子型差異と個体間競争の影響:武津英太郎(森林総合研究所林木育種センター)ら	P-193 千葉県におけるヒノキ雄花の時期別落下量:福島成樹(千葉県農林総合研究センター)ら	P-199 # ヤクスギ・アキタスギにおける仮道管径の幹基部への拡大と樹齢・樹高の関係:野口結子(神戸大学)ら
P-162 # 東日本におけるミネカエデ類の分布境界とその形成過程:竹内虎輔(東京大学大学院)ら	P-178 スギ精英樹の冬季における水分生理特性の幼老相関:河合慶恵(森林総合研究所林木育種センター関西育種場)ら	P-194 簡易な資材を用いた低温湿層処理によるカラマツ種子の発芽促進:丹羽花恵(岩手県林業技術センター)ら	P-200 # MRIから測定したプロトン密度および緩和時間と木部組織・水分分布との対応:平川晴菜(東京大学大学院)ら
P-163 # フタバガキ科樹木 <i>Shorea albida</i> の遺伝的多様性と集団構造:小笠原実里(愛媛大学大学院)ら	P-179 有名スギ産地試験地における産地の気候と成長の優劣との関係:玉城聡(森林総合研究所林木育種センター)ら	P-195 アカマツ10産地の種子を用いた全国の6試験地における出芽経過の比較:那須仁弥(森林総合研究所林木育種センター東北育種場)ら	P-201 輸出用植木類の土壤除去に伴う生理障害の要因と対策:高橋玄(千葉県農林総合研究センター)ら
P-164 # 絶滅危惧針葉樹ヤクタネゴヨウの遺伝的多様性と集団遺伝構造:柴野達彦(東京農工大学)ら	P-180 日本国内におけるキハダの遺伝資源評価に向けたゲノム情報の取得:平尾知士(森林総合研究所林木育種センター)ら	P-196 コウヤマキ種子からの不定胚分化:細井佳久(森林総合研究所)ら	P-202 # 萌芽枝整理された根株移植個体の樹液流速:渡部颯太(九州大学)ら
P-165 # 千葉県のズミ隔離集団における自家不和合性遺伝子の多様性:白間菜々海(東京大学)ら	P-181 キハダ実生の葉フェノロジーの産地間比較:稲永路子(森林総合研究所林木育種センター)ら		P-203 # 無道管被子植物ヤマグルマの樹液流特性:和田智弘(岐阜大学大学院)ら
P-166 # 同所的に生育するブナとイヌブナの葉形質とマイクロサテライト変異:鈴木春音(名古屋大学)ら	P-182 トドマツ雄花当たり花粉量にみられるクローンごとの年生差異及び年次変動:加藤一隆(森林総合研究所林木育種センター北海道育種場)ら		P-204 スギにおける単糖トランスポーター遺伝子 <i>CjSTP3</i> の単離および解析:細尾佳宏(信州大学)ら
P-167 # 出身地の異なるダケカンバの葉形質の違い:8箇所での産地試験を用いた分析:相原隆貴(筑波大学)ら	P-183 山陰・北陸側抵抗性クロマツ苗の2ヶ年の線虫接種試験による抵抗性評価:岩泉正和(森林総合研究所林木育種センター九州育種場)ら		P-205 # カラマツにおけるカリウムチャンネル遺伝子 <i>LkTPK2</i> の単離および解析:大塚彩葵(信州大学)ら
P-168 # 「福島3号」「S3HK7」におけるスギ雄性不稔性の発現過程:釣崎恵里子(新潟大学)ら	P-184 採種時期がカラマツつぎ木増殖の活着率および成長に与える影響:井城泰一(森林総合研究所林木育種センター東北育種場)ら		P-206 根圏低酸素・低pHのストレスが <i>Melaleuca cajuputi</i> の窒素吸収に与える影響:則定真利子(東京大学)ら
P-169 ブナ科の希少種ハナガシの地理的遺伝構造:上谷浩一(愛媛大学)ら	P-185 エリートツリーミニチュア採種園における外部花粉の低減:西原寿明(愛媛県農林水産研究所)ら		P-207 # 苗場山の異なる標高に分布するブナの成長と幹呼吸:小松亮(静岡大学)ら
P-170 カラマツ着花変異系統を用いた着花に関わる原因遺伝子座の探索:三嶋賢太郎(森林総合研究所林木育種センター)ら	P-186 ヒノキミニチュア採種園の管理技術の検討-剪定について-:三浦真弘(森林総合研究所林木育種センター関西育種場)ら		P-208 異なる高さで測定されたスギの幹におけるCO ₂ 動態:橋本正明(静岡大学)ら
P-171 スギ交配家系集団のゲノミック予測モデルに対する遺伝構造と形質分散の影響:永野聡一郎(森林総合研究所林木育種センター)ら	P-187 異なるポーレンダスター授粉法がスギ閉鎖系採種園の種子生産に及ぼす影響:伊藤由紀子(新潟県)ら		P-209 気候の異なる3つの植栽地におけるスギクローンの遺伝子発現の年周性の違い:能勢美峰(森林総合研究所林木育種センター)ら
P-172 RNA-Seqによるカラマツ・グイマツ交雑次代の材質に関わる遺伝的要因の探索:楠和隆(住友林業株式会社)ら	P-188 スギ花粉に対する石松子の混合割合と人工交配による種子生産性の関係:宮下智弘(山形県森林研究研修センター)ら		P-210 # 太平洋側の温暖な低地に生育するブナの光合成速度の季節変化:矢ヶ崎真衣(日本大学)ら
P-173 高温条件下におけるジベレリン処理後のスギ雄花着花量評価と遺伝子発現解析:坪村美代子(森林総合研究所林木育種センター)ら	P-189 ヒノキ少花粉品種における根域抑制栽培による着花促進について:西川浩己(山梨県森林総合研究所)ら		P-211 ブナ実生の光合成-温度応答特性:実生の生育温度と母樹の標高が及ぼす影響:赤路康朗(国立環境研究所)ら
P-174 さし付け方法の異なるスギさし穂における遺伝子発現変動:福田有樹(森林総合研究所林木育種センター九州育種場)ら	P-190 ジベレリンの適期外処理がスギ花芽分化に与える影響:田中功二(青森県産業技術センター林業研究所)ら		P-212 芽吹き前のブナの葉の酸化ストレスが光合成の季節変化に及ぼす遅発性後遺症:斎藤秀之(北海道大学)ら

研究発表題目 (ポスター発表 P-213~P-266 生理、植物生態)

生理	植物生態		
P-213 # ブナ樹冠の個葉の異なる養分状態と短時間高温による光合成低下の後遺症: 岡崎裕平(北海道大学)ら	P-228 # 2004年に風倒被害が発生した野幌森林公園の天然更新にササが与える影響:五十嵐詩織(酪農学園大学)ら	P-244 # 光条件操作による松ヶ岡ミズバショウ観賞園の管理作業の省力化:瓜生千馬(山形大学大学院)ら	P-260 ヒノキ・コナラ林の葉群生産フェノロジー: 階層ベイズモデルによる推定:仲畑了(京都大学)ら
P-214 ハウチワカエデの紅葉に伴う離層の形成過程:矢崎健一(森林総合研究所)ら	P-229 # コナラ・ミズナラにおける萌芽と潜伏芽の関係:木村悠里(新潟大学)ら	P-245 # 北海道胆振東部地震により発生した表層崩壊地での初期の植生回復プロセス:安藤宏明(北海道大学大学院)ら	P-261 チョウセンゴヨウの花粉生産量: 定量的植生復元の基礎資料として:佐々木尚子(京都府立大学大学院)ら
P-215 # 発表取消	P-230 # 冷気湖に対するブナの局所適応: 葉フェノロジーの種内変異と集団遺伝構造:杉本咲(岩手大学大学院連合農学研究科)ら	P-246 # 鳥類の種子散布機能: 種子の体内滞留時間と鳥類の林分間移動に基づく検討:平尾多聞(宮崎大学)ら	P-262 トチノキ個体における雄性器官と雌性器官への繁殖投資効率:川口英之(島根大学)ら
P-216 # ダケカンバのクロロフィル蛍光特性の産地間変異:中田修人(静岡大学)ら	P-231 # 幹枝の長さや直径は伸長・肥大量にどのくらい影響するか: クロトウヒの例:田邊智子(京都大学)ら	P-247 # 若年のスギ精英樹203系統のシュート形態の違い及び成長・根系形質との関係:後藤良輔(京都大学)ら	P-263 MODIS観測データを用いたブナの黄葉モデリング:小出大(国立環境研究所)
P-217 針葉樹の光合成機能解析III-系Iサイクリック電子伝達反応の検出条件-:津山孝人(九州大学)	P-232 # 低木の葉分布構造の違いは日光合成生産量に正の効果を与えているのか?: 石橋和明(静岡大学大学院)ら	P-248 # 北海道根釧台地を流下する西別川の水质とバイカモのシュート伸長の関係: 鷲直哉(山形大学大学院)ら	P-264 水サンプルからの樹木DNAの検出-イチイガシ、アサダ、イロハモミジ-:黒河内寛之(東京大学)ら
P-218 # ヒメシャラにおける幹枝クロロフィル含有量の光環境と器官サイズによる違い:鈴木奈穂(静岡大学)ら	P-233 # 4年生スギ精英樹70系統の枝葉の形質、光獲得様式の違い:亀井啓明(京都大学大学院)ら	P-249 # 絶滅危惧種ヤクシマランのヒノキ人工林における生育状況:川崎実穂(宮崎大学)ら	P-265 隠岐諸島におけるミズナラの分布特性:立花寛奈(一社) 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会)ら
P-219 # 水ストレス及びジベレリンに対するヒノキの花成応答:兼松史奈(岐阜大学)ら	P-234 # 兵庫県南東部における自然回復緑化地での林分構造の動態と管理方法の検討:吉岡鷹彦(神戸大学)ら	P-250 # 多雪山地高標高域に生育するミズナラの遺伝的分化:渡辺陽平(弘前大学大学院)ら	P-266 落葉樹林におけるUAV画像から定量した樹木フェノロジーと樹液流量の比較: 飯尾淳弘(静岡大学)ら
P-220 # カエデ属2種の花芽形成期に発現する花成関連遺伝子の探索:藤岡薫子(東京大学)ら	P-235 # 伐採後熱帯二次林に密生するマント群落がバイオマス回復速度へ与える影響:竹重龍一(京都大学)ら	P-251 # ブナにおけるVOCsと葉形質の地理的変異:萩原幹花(京都大学)ら	
P-221 # 植物ホルモンの外生処理によるヒノキ科樹木の形態的病害応答の変化:竹田真子(鳥取大学)ら	P-236 # Height allocation strategies along vertical light gradients during tropical forest succession:松尾智成(Wageningen University & Research)ら	P-252 # 衛星画像を用いた常緑広葉樹の樹種判別における開花季節の利用可能性:篠原碧(筑波大学)ら	
P-222 # 東京港野鳥公園の常緑広葉樹萌芽における葉のポリフェノール濃度:矢作和樹(東京農工大学大学院)ら	P-237 # 都立砧公園における過去30年間の植生変化:上村隼平(東京農業大学)ら	P-253 平成29年7月北部九州豪雨による崩壊斜面における植生回復:作田耕太郎(九州大学大学院)ら	
P-223 # 北関東の異なる立地条件における落葉広葉樹の根と葉のポリフェノール含有量:田中真子(東京農工大学)ら	P-238 # ブナ実生の生存時間に影響する光環境を規定する要因の相対的重要性:板橋朋洋(秋田県立大学)ら	P-254 気候ストレス指数の全球推定により森林の気候変動への応答を予測する:平田晶子(森林総合研究所)ら	
P-224 ユーカリにおける加水分解性タンニンの生合成機構の解明:山満千尋(森林総合研究所)ら	P-239 # 三郡山系の天然林域におけるブナ個体の樹齢および肥大成長:舟戸陽介(九州大学大学院)ら	P-255 エゾマツ林冠木の主幹先端で分枝した枝による葉群拡大パターンについて:関剛(森林総合研究所)	
P-225 加水分解性タンニン生合成の抑制を目指した遺伝子組換えユーカリの作成:田原恒(森林総合研究所)ら	P-240 # 種多様性の高い冷温帯落葉性広葉樹林でのササ枯死後の稚樹バンク成立過程:木下信(静岡大学大学院)ら	P-256 スギ・ヒノキ人工林における間伐後7年間の光環境と下層植生の変化:土井裕介(地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所)ら	
P-226 # 根圏低酸素下での過剰AIが与えるフトモモ科樹木の根端内ペクチンへの影響:吉沢拓真(東京大学大学院)ら	P-241 # 筑波山におけるブナの開花結実の年変動:星野恭宏(東京大学大学院)ら	P-257 森林群集・集団内構造と父性繁殖成功の関係:鳥丸猛(三重大学)ら	
P-227 フトモモ科樹木の根端の細胞壁のAI吸着特性:山ノ下卓(東京大学)ら	P-242 # 短期間の土壌乾燥ストレスに対するブナ実生の特性評価:青日菜子(三重大学)ら	P-258 南限域の紫尾山におけるブナの分布状況:金谷整一(森林総合研究所九州支所)ら	
	P-243 # 低標高樹木限界の風衝地におけるハクサンシャクナゲの環境適応:本山直樹(新潟大学)ら	P-259 上名川に生育するブナ、ウダイカンバの肥大成長と気候要素との関係:沈リトウ(秋田県立大学)ら	

研究発表題目 (ポスター発表 P-267~P-315 立地、防災・水文)

立地		防災・水文	
P-267 # あいち海上の森のヒノキ林における土壌物理特性一表層地質の違いに着目して:杵山哲矢(名古屋大学大学院)ら	P-283 ネットゼロ目標に対する森林の貢献度評価に向けて:松井哲哉(森林総合研究所)ら	P-299 里山林における竹林拡大が土壌ガス代謝と炭素循環に及ぼす影響:籠谷泰行(滋賀県立大学)ら	P-300 # ボルネオ熱帯雨林はENSOにどう応えるのか?:羽田泰彬(東京大学)ら
P-268 # 北海道東部の森林の根圏土壌における初冬・初春および盛夏の微生物群集:中山理智(京都大学)ら	P-284 デジタル地形データと機械学習を用いた土壌の乾湿タイプ予測モデルの開発:稲垣昌宏(森林総合研究所)ら		P-301 # 異なる森林状態を対象とした蒸発散モデルの構築と流域スケールへの適用:猪越翔大(東京農工大学)ら
P-269 # Spatial variation of surface soil nitrogen dynamics and soil microbial activity in natural cool-temperate mixed forest:朱詩瑤(北海道大学)ら	P-285 ティーバッグ法による有機物分解速度推定は妥当なのか?:森大喜(森林総合研究所)		P-302 # 人にとって快適な風環境をつくる防風林とは:大川佐知(信州大学)ら
P-270 # 冷温帯林の小集水域における渓流水質と渓流水中の微生物の関係:大上迪士(京都大学)ら	P-286 渓流での窒素保持に河床と河川間隙水域が及ぼす影響:笠原玉青(九州大学大学院)ら		P-303 # ヒノキ人工林における間伐が樹冠通過雨の雨滴衝撃エネルギーに与える影響:李昱竺(九州大学)ら
P-271 # 土壌環境に触発された樹木の細根動態が森林の土壌有機物に与える影響:林亮太(名古屋大学大学院)ら	P-287 ササの葉と根から抽出した植物ケイ酸体の粒径分布の特徴:梅村光俊(森林総合研究所)ら		P-304 # 高齢高密度非管理ヒノキ人工林における雨水配分:上谷梨咲(九州大学)ら
P-272 # X線CTスキャン法による樹木根系の解析手法の開発に関する基礎研究:源光寺美季(京都府立大学)ら	P-288 長期データとモデルから推定されるスギ人工林の材成長とその枯死率:酒井寿夫(森林総合研究所)		P-305 仙台海岸盛土造成地に植栽した常緑広葉樹の生残と活力度の4年間の推移:石井希理(東北工業大学)ら
P-273 # 富士山の針葉樹人工林における異なる標高での土壌呼吸:重藤皓一(静岡大学大学院)ら	P-289 山陰地方のスギ人工林における間伐による土壌窒素動態への影響:藤巻玲路(島根大学)ら		P-306 # スキャナー法を用いたモウソウチク林の根系動態:松本達也(九州大学)ら
P-274 # 2018年北海道胆振東部地震に伴う崩壊と斜面からの炭素移動量の評価:八十川伊織(東京農工大学)ら	P-290 カラマツ人工林における落葉SLAの変動要因:小林元(信州大学)ら		P-307 # 複数の雨量指標における既往最大値との比較による土砂災害発生の予測:福田幹(京都大学)ら
P-275 # UAV・衛星リモートセンシングによる森林蒸発散量の推定:橋本朝陽(筑波大学)ら	P-291 コウヨウザン人工林における3年間の表土移動量と下層植生の変化:渡辺靖崇(広島県立総合技術研究所林業技術センター)ら		P-308 # 下層植生の衰退した広葉樹林におけるUAVを用いた土壌侵食量の面的評価:宮崎拓馬(宮崎大学)ら
P-276 # 地表かき起こし施業からの経過年数に伴うミミズ群集の回復と団粒発達:河上智也(北海道大学)ら	P-292 スギ人工林皆伐後の経過年数が異なる土壌における微生物相の比較:阿部有希子(東京大学)ら		P-309 # 胆振東部地震に伴い異なる崩壊面積率を有した山地小流域からの土砂流出特性:荒田洋平(東京農工大学)ら
P-277 奥秩父山地における気温・地温の広域時系列予測モデル:本郷恵莉(千葉大学大学院)ら	P-293 Termite disturbances increase soil water drainage in tropical forest soils:藤井一至(森林総合研究所)ら		P-310 # 北海道胆振東部地震における斜面崩壊の発生要因の解析:半澤風人(石川県立大学)ら
P-278 落葉の樹種による違いが鉱質土壌の硝化微生物群集に及ぼす影響:執行宣彦(森林総合研究所)ら	P-294 打ち切りデータを含む土壌断面情報を用いた土層厚マッピング:山下尚之(森林総合研究所)ら		P-311 # 地形的要因からみた流木発生リスクの予測:柿原寧音(京都府立大学)ら
P-279 選択的リグニン分解に伴う漂白は亜熱帯林の落葉分解を促進する:大園享司(同志社大学)	P-295 木質燃焼灰施用が施用4年後のスギ新植林分の土壌微生物相に及ぼす影響:山田毅(森林総合研究所)ら		P-312 # 全国のダム貯水池における近年の流出流量傾向の把握:宮崎仁(東京農工大学)ら
P-280 新潟県阿賀町周辺における最終氷期末期以降の森林変遷とスギの拡大:志知幸治(森林総合研究所)ら	P-296 斜面中部と下部の同齢ヒノキ林におけるA ₀ 層から鉱質土壌にかけての窒素動態:細川奈々枝(森林総合研究所)ら		P-313 # 筑後川流域支流寺内ダムにおける流入流量の時系列変化とその特徴:小林優斗(東京農工大学)ら
P-281 タイ西部のチーク人工林での約20年間の成長と土壌特性:平井敬三(森林総合研究所)ら	P-297 ミクロネシア連邦ポンペイ島マングローブ林における全細根生産速度の試算:小野賢二(森林総合研究所)ら		P-314 # 現地観測に基づいた堆積岩山地と花崗岩山地の降雨流出特性の比較:稲岡諄(京都大学)ら
P-282 日本の4つの森林における長期的と短期的な手法に基づく樹木の養分蓄積速度:稲垣善之(森林総合研究所四国支所)ら	P-298 仙台湾の海岸盛土斜面に植栽した広葉樹の土壌特性による成長の違い:佐野哲也(東北工業大学)ら		P-315 # 基岩面上の不均質な透水性分布と排水能力に関する一考察:柳井鴻太郎(京都大学大学院)ら

研究発表題目 (ポスター発表 P-316~P-371 防災・水文、利用)

防災・水文		利用	
P-316 # 沖縄島北部の山地小流域における流出量の解析:畑紫恵菜(琉球大学)ら	P-332 樹液流速測定に基づくスタジイ樹冠コンダクタンスの環境応答特性:飯田真一(森林総合研究所)ら	P-348 日本の森林流域における流域スケールがもたらす水収支の不均一性:小田智基(森林総合研究所)ら	P-356 # 神奈川県における未利用材の粉碎作業:黒田浩太郎(日本大学)ら
P-317 # 塩化物イオン収支を用いた隣接小流域における深部地下水浸透量の定量化:浅野陽平(京都府立大学)ら	P-333 ナラ枯れ被害のあった暖温帯広葉樹林の二酸化炭素交換特性:高梨聡(森林総合研究所)ら	P-349 日本の森林を対象とした水資源賦存量による地域区分の試み:澤野真治(森林総合研究所北海道支所)ら	P-357 # 基盤地図情報を用いた林内路網計画:田中望(東京農業大学)ら
P-318 # Runoff generation and bedrock groundwater responses in headwater catchments with sedimentary rock.:グエンティ・マイ・リン(東京農工大学)ら	P-334 プナが優占する冷温帯落葉広葉樹林におけるCO ₂ 交換量の長期観測:小坂泉(日本大学)ら	P-350 スギ・ヒノキ林の土壌の透水性・保水性に間伐が及ぼす影響:松本一穂(琉球大学)ら	P-358 # CIMを活用した林道設計の可能性:石井航(東京農業大学)ら
P-319 # 水の安定同位体比からみた間伐による地下水涵養メカニズムの変化:大桃早貴(筑波大学)ら	P-335 Carbon cycling in Moso bamboo forests:久米朋宣(九州大学大学院)ら	P-351 秩父山地の堆積岩からなるバケモノ沢における降雨-流出特性:浅野友子(東京大学)ら	P-359 # GISによる架線集材可能範囲の検討:木野朗斗(京都府立大学)ら
P-320 # 酸素水素安定同位体比を用いた近畿地方の降水の水蒸気起源推定:鶴田みずほ(京都府立大学)ら	P-336 化学発光法を用いた低コストなインフレンフラックス連続観測手法の開発:深山貴文(森林総合研究所)ら	P-352 竜ノ口山南谷3%面積におけるヒノキ林30%間伐後4年間の水流出の変化:細田育広(森林総合研究所関西支所)	P-360 # スギの木口画像から得られる情報を用いた原木強度の推定:植田小晴(京都府立大学大学院)ら
P-321 林床面蒸発散量推定モデルの精度向上に向けたパラメータ検証:小野里尚哉(筑波大学)	P-337 ¹³ Cパルスラベリングを用いたヒノキの師部輸送の日変動:檀浦正子(京都大学)ら	P-353 2020年の少雪が融雪流出に与えた影響:田村浩喜(秋田県林業研究研修センター)ら	P-361 # 電子タグによる広葉樹立木の質・量的記録と管理手法の開発:谷内廉(神戸大学大学院)ら
P-322 堆積量・パッキング率の異なるスギ・アカマツリター層の室内延焼実験:吉藤奈津子(森林総合研究所)ら	P-338 開発途上国の防災に資する我が国の治山技術の可能性:岡本隆(森林総合研究所)ら	P-354 2次元モデルシミュレーションを用いた河畔林から河川への落葉散布推定:阿部俊夫(森林総合研究所)ら	P-362 群馬県における過去20年間の林道災害分析:有賀一広(宇都宮大学)ら
P-323 和歌山県檜樹ヶ浜松林における2018年以降のマツ類枯死要因について:法眼利幸(和歌山県林業試験場)ら	P-339 スギ林を対象にした斜面安定解析の例:岡田康彦(森林総合研究所)ら	P-355 森林域から都市域へ輸送される河川水中に溶存有機物の分子種の変遷について:井手淳一郎(公立千歳科学技術大学)ら	P-363 作業道の簡易排水を用途とする粗朶の空隙率計測手法の検討:山口智(森林総合研究所)ら
P-324 長期再解析領域ダウンスケーリングを用いた森林風害リスク評価の試行:勝島隆史(森林総合研究所)ら	P-340 森林整備施業後の土砂流出量の変化について:廣瀬満(山梨県森林総合研究所)		P-364 作業道路面の状態と履帯式機械の旋回挙動の関係:宗岡寛子(森林総合研究所)ら
P-325 静砂垣内の樹木配置が生残率および成長量に与えた影響-静岡県浜松市の例-:萩野裕章(森林総合研究所)ら	P-341 火山性荒廃地に設置した三日月形緑化資材の2年間の侵食防止効果:小川泰浩(森林総合研究所)ら		P-365 小型バックホウの路体締固めにおける最適手法の検討:和多田友宏(岐阜県森林研究所)ら
P-326 雪崩発生確率とその規模に関する温暖化影響評価:勝山祐太(森林総合研究所)ら	P-342 立木が斜面崩壊の移動性に及ぼす影響:経隆悠(森林総合研究所)ら		P-366 作業道開設オペレータの注視点と作業との関係:松本武(東京農工大学大学院)ら
P-327 管理モウソウテク林における葉のフェノロジーと稈齢が蒸散に及ぼす影響:鶴田健二(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)ら	P-343 ミズナラ二次林とカラマツ人工林におけるスズタケ枯死後の土壌浸食:長池卓男(山梨県森林研)		P-367 小規模作業システムによる広葉樹伐出のために必要な路網整備についての考察:鈴木保志(高知大学)ら
P-328 針葉樹人工林における植生量を考慮した林床蒸発モデルの構築:邱滇璋(東京農工大学)ら	P-344 南米地域における森林火災が表層土壌に及ぼす影響_文献レビュー_:今村直広(森林総合研究所)ら		P-368 森林作業道計画支援地図の作成:白田寿生(岐阜県森林研究所)ら
P-329 衛星画像のNDVIを用いた間伐による蒸散量の変化予測:篠原慶規(宮崎大学)ら	P-345 土石流先端部における流木塊の挙動:鈴木拓郎(森林総合研究所)ら		P-369 効率的な森林バイオマス推定手法の検討:若月優姫(国際航業株式会社)ら
P-330 森林簿と航空機レーザー計測による森林状態と流域スケール蒸発散量の評価:五味高志(東京農工大学)ら	P-346 倒流木を除去した渓流区間における倒流木の再発生とその要因:島田博匡(三重県林業研究所)		P-370 バイオマス利活用促進のための個体ベース森林生態系モデル開発と可視化:大場真(国立環境研究所)ら
P-331 熱帯季節林での蒸散散は極端な高温・乾燥条件を経てどのように復旧するのか:清水貴範(森林総合研究所)ら	P-347 スギの髓の酸素同位体比から日単位で降水量を復元する試み:久保田多余子(森林総合研究所)ら		P-371 斜面形状に基づく植栽地点の自動生成:白澤紘明(森林総合研究所)ら

研究発表題目（ポスター発表 P-372～P-413 利用、動物・昆虫、特用林産）

利用	動物・昆虫	特用林産
P-372 植栽作業の省力化を目的とした電動クローラ型1輪車の開発:山口浩和(森林総合研究所)ら	P-384# 土地被覆変遷の定量化によるケラマジカ個体数の原単位算出の試み:伊藤駿(東京農業大学)ら	P-409 ショ糖水溶液を用いた精選によるウルシ種子の発芽率向上:皆川拓(岩手県林業技術センター)
P-373 荷役作業自動化のための材形状推定における自動機械学習の適用:有水賢吾(森林総合研究所)	P-385# 房総半島のキョンの密度増加における生態学的要因の解明:上野大輔(東京大学)ら	P-410 精米機による処理がウルシ種子の発芽に与える影響:土屋慧(青森県産業技術センター林業研究所)
P-374 フォワーダ荷台における丸太積載位置自動検出技術の開発:伊藤崇之(森林総合研究所)	P-386# 山陰地方の広葉樹二次林と針葉樹人工林における鳥類群集種構成の過去と現在:外山祐紀(島根大学)ら	P-411 小規模わさび田の価値を再認識する-静岡市のわさび田を対象として:竹内真一(東海大学)ら
P-375 フォワーダ走行における作業員の労働負担:中田知沙(森林総合研究所)ら	P-387# 広葉樹二次林皆伐後の遷移にそった送粉者群集の変化:高橋真由(新潟大学)ら	P-412 薬用のつる性木本植物カギカラの25系統の成長、収量及びアルカロイド含量:谷口亨(森林総合研究所)ら
P-376 画像認識AIを用いた作業時間分析手法の提案:吉田智佳史(森林総合研究所)ら	P-388# プナ林の歴史的分布変遷がヒメオオクワガタの遺伝構造に及ぼす影響:上木岳(信州大学)ら	P-413 プナ、タムシバ、クロモジにおける夏と秋の抗酸化成分の相違:山口智子(新潟大学)ら
P-377 軽架線用手動式係留搬器による集材作業工期:矢部和弘(東京農業大学)ら	P-389# ライム病の原因菌と媒介者のシュルツェマダニの遺伝構造の関係:塚本宝(東京大学)ら	P-405 フラスからのカシノナガキクイムシの識別:濱口京子(森林総合研究所)ら
P-378 ウェアラブルセンサを用いた林業作業における作業動作と心身状態の可視化:榎本真(日本ユニシス株式会社)ら	P-390# 北関東におけるカシノナガキクイムシの遺伝的変異:飯塚早紀(宇都宮大学大学院)ら	P-406 ピロウドカミキリのボルバキアをマツノマダラカミキリの卵に注入する試み:相川拓也(森林総合研究所)ら
P-379 受口づくりの技能評価手法の検討:猪俣雄太(森林総合研究所)ら	P-391# 都市緑地におけるナラ枯れの初期被害状況と空間分布の推移:加藤優奈(東京農工大学大学院)ら	P-407 クビアカツヤカミキリ飼育個体に対するスミバインMCの防除効果試験:小田奈津子(和歌山県林業試験場)ら
P-380 防護具切断抵抗性試験機のガイドバー熱分布に基づく代替調整基準:松村哲也(信州豊南短大・東大院農)	P-392# 日本大学藤沢演習林で発生したヒラタケ白こぶ病に関連するキノコバエ:紫村昂平(日本大学)ら	P-408 エボキシ系接着剤を用いたクビアカツヤカミキリ成虫の脱出阻止:滝久智(森林総合研究所)ら
P-381 イノシシ等攻撃による金属製防護柵振動検知システムの開発:井内正直(アイオーネイチャーラボ株式会社)	P-393 ツキノワグマ忌避剤による剥皮害防除試験とその課題:柳澤賢一(長野県林業総合センター)ら	
P-382 チップ敷設厚の違いによる苗木成長への影響:向井愛美(千葉県農林総合研究センター)	P-394 首輪型映像記録装置による直接観察と糞分析によるツキノワグマの食性の比較:小池伸介(東京農工大)ら	
P-383 多目的造林機械およびエンジン式刈払機による下刈り作業時の身体活動量:矢本智之(青森県産業技術センター林業研究所)	P-395 人為的攪乱の異なる環境下における哺乳類相の利用状況の違い:池田敬(岐阜大学)ら	
	P-396 山梨県峡南地域の里山におけるニホンジカの土地利用の把握:林耕太(山梨県森林総合研究所)	
	P-397 遠隔通知システムを利用した再造林地周辺におけるシカ捕獲:八代田千鶴(森林総合研究所関西支所)ら	
	P-398 宮崎大学田野演習林におけるニホンジカの造林木への被害:平田令子(宮崎大学)ら	
	P-399 鹿児島県の樹木・森林の虫害発生状況:川口エリ子(鹿児島県森林技術総合センター)ら	

研究発表題目 (ポスター発表 P-414~P-447 微生物、T1)

微生物		T1 生物多様性保全と森林管理
P-414 # The comparison of molecular regulatory mechanisms during ecto- and arbuscular mycorrhizal formation in <i>Populus tomentosa</i> : KosolwattanaPhobthum(東京大学)ら	P-430 菌根菌生産・分解の高頻度測定手法の開発:SchaeferHolger(森林総合研究所)ら	P-446 # 針葉樹人工林の複層林化が鳥類の種多様性に与える影響:西鈴音(宮崎大学)ら
P-415 # アカマツ根冠由来の細胞外トラップ (RETs) によるバクテリアの捕捉:白川誠(東京大学大学院)ら	P-431 小笠原の南根腐病発生地における土壌特性:太田祐子(日本大学)ら	P-447 # 針葉樹人工林内の広葉樹混交量と昆虫群集の関係:入江雄(北海道大学大学院)
P-416 # 異なる生育環境がスギの細根形態とAM菌感染に及ぼす影響:小島直也(三重大学大学院)ら	P-432 非赤枯性溝腐病の病原菌チャアナタケモドキの乾燥及び高温に対する耐性:岩澤勝巳(千葉県農林総合研究センター)	
P-417 # スギ細根から分離された内生菌が持つ植物体化学成分の分解能力と成長量:千葉尚哉(名古屋大学大学院)ら	P-433 風倒被害を受けたスギ人工林における非赤枯性溝腐病による辺材腐朽の状況:市原優(森林総合研究所関西支所)ら	
P-418 # 暖温帯二次林における土壌呼吸に占める子実体呼吸の割合の季節変化:築航太朗(東京農業大学)ら	P-434 北海道内でのエゾサルノコシカケによるカラマツ幹腐朽被害:山口岳広(森林総合研究所)	
P-419 # 林内環境の異なる林分間における外生菌根菌の種多様性:瀬川あすか(東京農業大学)ら	P-435 Effects of <i>Fusarium</i> fungi isolated from an ambrosia beetle, <i>Euwallacea fornicatus</i> , on mango tree saplings:姜自如(名古屋大学)ら	
P-420 # 御嶽山亜高山帯針葉樹林の針葉樹4種における外生菌根菌の感染状況:高津柊大(名古屋大学)ら	P-436 オオキノコムシ科7属と酵母類の随伴関係:升屋勇人(森林総合研究所)ら	
P-421 # Do <i>Tilia maximowicziana</i> ectomycorrhizal communities in Hokkaido include a <i>Tilia</i> -specific ectomycorrhizal fungal species?: ヤノフスキダニエル(東京大学)ら	P-437 ホソチビオオキノコの随伴菌類:安藤裕萌(森林総合研究所)ら	
P-422 # Species richness of arbuscular mycorrhizal fungal associated with Japanese cedar forest along a latitudinal gradient:ユステイカサリリンダ(三重大学)ら	P-438 キリ腐らん病菌をはじめとする日本産 <i>Cytospora</i> 属の分類学的検討:服部友香子(森林総合研究所)ら	
P-423 # 火山遷移地におけるオオバヤシャブシの共生微生物群集:石川陽(東京大学)ら	P-439 九州におけるクロマツ褐斑葉枯病の発生:秋庭満輝(森林総合研究所九州支所)	
P-424 クマ剥ぎによるヒノキ被害部の腐朽程度と菌類組成:戴健平(東京大学大学院)ら	P-440 近年、北海道で見出された細菌性広葉樹病害 (I):石原誠(森林総合研究所)	
P-425 # ノキシノブ葉面から分離された菌類:柴田紗帆(法政大学)ら	P-441 シラカシの実生枯死に関与する疫病菌について:筒井杏子(筑波大学)ら	
P-426 # 群馬県桜山公園におけるフユザクラの増生症状:布施川慎一(日本大学)ら	P-442 抵抗性クロマツ接ぎ木苗に接種したマツノザイセンチュウの樹体内分布:中島剛(青森県産業技術センター林業研究所)ら	
P-427 # 国内植栽の熱帯果樹から検出された養菌性キクイムシと菌類:宮越望(神戸大学大学院)ら	P-443 ナラ枯れ初発地におけるならたけもどき病の空間分布:高橋由紀子(森林総合研究所)ら	
P-428 クロマツ-シヨウロ外生菌根の遺伝子発現プロファイリング:小泉敬彦(理化学研究所)ら	P-444 根部内生菌 <i>Hymenoscyphus</i> sp. の子実体形態および子実体発生パターン:中村慎崇(森林総合研究所)	
P-429 複数スケールに分けた立地環境からみる外生菌根性子実体発生状況の特徴:田中恵(東京農業大学)ら	P-445 黒点病に罹病したスギ雄花序上の菌群集の季節変化:松村愛美(森林総合研究所)ら	

研究発表題目（ポスター発表 P-448～P-480 T2、T3、T4）

T2 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的 研究と応用研究	T3 森林の放射能研究		T4 樹木根の成長と機能
P-448 山中湖村住民の「森と健康」に関するアンケート調査—居住者属性による違い:藤原章雄(東京大学)ら	P-449 # 森林斜面からの水流出の変化と表流水の溶存態Cs-137濃度の関係:庭野佑真(筑波大学)ら	P-465 アカマツ実生苗のセシウム吸収に及ぼす菌根菌及びカリウム施肥の影響:小河澄香(森林総合研究所)ら	P-468 # クロマツ根系の年輪解析に基づく発達様式:米田明日香(名古屋大学)ら
	P-450 # 福島原発事故の影響を受けた落葉広葉樹大径木における放射性セシウム分布:中島芳(宇都宮大学大学院)ら	P-466 シイタケ子実体Cs濃度とコナラ原木のCs分布の関係性:小林勇介(福島県林業研究センター)	P-469 # 巨礫を下層に含む土壤に生育するスギ根系の二周波地中レーダを用いた検出:金子祥也(名古屋大学)ら
	P-451 森林土壌における降雨浸透水中のCs-137濃度と化学性の関係:高橋純子(筑波大学)ら	P-467 シイタケ原木非破壊検査機を利用した原木林利用適否判定の試行:成松真樹(岩手県林業技術センター)	P-470 スキャナ法によるスギ末端次数根の発達過程の解明:趙星一(兵庫県立大学)ら
	P-452 枯死葉リターから水生昆虫へのセシウム137の移行:金指努(福島大学)ら		P-471 # マングローブ林におけるスキャナー法による細根動態観測:木原友美(京都大学)ら
	P-453 落葉堆肥とリターフォール、樹上当年枝における放射性セシウム濃度の関係:市川貴大(くまの木里山応援団)ら		P-472 # ヒノキ林における脱落根の現地採取法の検討:黒見信輔(名古屋大学)ら
	P-454 土壌からモウソウチク植物体内への放射性セシウムの移行過程:齋藤智之(森林総合研究所)ら		P-473 # 山岳域における樹木細根の非構造性炭水化物貯蔵と根特性の関係:橋本裕生(信州大学)ら
	P-455 施肥試験地におけるタケノコの放射性セシウム濃度のばらつき要因の検討:長峯秀和(福島県林業研究センター)ら		P-474 # 冷温帯林における樹木細根組織に含まれる一次代謝産物の樹種間比較:勝間帆波(信州大学)ら
	P-456 福島県内のコシアブラにおける放射性セシウム濃度の斜面位置による違い:香山雅純(森林総合研究所)ら		P-475 # オニグルミ根による滲出物の化学成分とその季節変動:白山潤(信州大学大学院)ら
	P-457 コナラの当年枝と幹のセシウム濃度の関係:幹サイズに依存するか?:大橋伸太(森林総合研究所)ら		P-476 # 福島県のスギ林における樹木根中のCs-137濃度の深度分布及び転流量の評価:井口啓(筑波大学)ら
	P-458 斜面上の位置の違いがコナラ当年枝の放射性セシウム濃度に及ぼす影響:阪田匡司(森林総合研究所)ら		P-477 # 山岳域の樹木細根による無機態窒素吸収は標高差によって変化するのか?:伊藤拓生(信州大学)ら
	P-459 コナラ萌芽更新木における当年枝の放射性セシウム濃度の経年変動の評価:坂下渉(森林総合研究所)ら		P-478 山岳域の標高に沿った土壌中の無機態窒素濃度と植物根による吸収量の変化:小田あゆみ(信州大学)ら
	P-460 展葉期から落葉期におけるコナラセシウムの経時変化:井上美那(国土防災株式会社)ら		P-479 トドマツにおける産地間の適応的な形質変異の探索:春の苗木の根の組織構造:遠藤いず貴(兵庫県立大学)ら
	P-461 広葉樹萌芽株当年枝の放射性セシウム濃度のばらつきについて:伊東宏樹(森林総合研究所)ら		P-480 ヒノキ及びカラマツ細根の枯死判定基準の違い:大橋瑞江(兵庫県立大学)ら
	P-462 スギ・コナラ幼齢林におけるセシウム分布:山村充(国土防災技術株式会社)ら		
	P-463 カリウムを施肥したヒノキの葉、樹皮、材、および枝の放射性セシウム濃度:長倉淳子(森林総合研究所)ら		
	P-464 東京大学演習林での福島原発事故後10年の野生きのこの放射性セシウム推移:山田利博(東京大学)ら		

企画シンポジウム

S1. スギ雄性不稔遺伝子の同定およびマーカー選抜技術の開発と利用

Identification of male-sterile genes and development and application of marker-assisted selection systems

コーディネータ：森口喜成（新潟大学）、上野真義（森林総合研究所）

3月28日 9:00～12:00 会場 Room 1

主働遺伝子に支配されている形質の選抜では、有用形質に関連した DNA マーカーを利用する marker-assisted selection (MAS) が効果的である。林木においては形質が評価できるようになるまでに長い年限を必要とするため、短期間で有用形質を持つ個体を選抜することが可能になる MAS は非常に魅力的である。針葉樹はゲノムサイズが大きく、反復配列が多く含まれていることからゲノム配列の構築が作物に比べて遅れている。しかし、近年、次世代シーケンサーによる解析などゲノム解析技術の進歩とともに、針葉樹においても、徐々にゲノム情報が蓄積されてきている。

スギ花粉症対策として、花粉を全く飛散させない無花粉スギの利用は非常に有効である。無花粉スギは、単一の潜性遺伝子（雄性不稔遺伝子）に支配されており、これまでに4つの雄性不稔遺伝子 MS1、MS2、MS3、MS4 が見いだされ、それらは異なる連鎖群に位置することが明らかになっている。本シンポジウムでは無花粉スギの普及促進に向けて、雄性不稔遺伝子の同定と MAS システムの開発、その応用についての最新の成果を報告していただく。多くの学会員に参加いただき、情報を共有し、今後の研究展開や取り組むべき課題について考える場としたい。

S2. 山地森林環境の長期的な変化と、それらが水・土砂・流木の流出に及ぼす影響をふまえた災害予測の可能性

The effect of long-term changes in mountain forest environment on water, sediment and woody debris transport and possibility of disaster prediction based on those knowledges

コーディネータ：浅野友子（東京大学）、内田太郎（筑波大学）

3月28日 9:00～12:00 会場 Room 2

人が身近な森の資源に頼って暮らしていた100年前には里山は荒廃し、毎年の降雨による表土の侵食速度は現在に比べて大きかった。一方、近年は、森林資源があまり使われなくなり森林や下層植生が回復し、表土は年々厚さを増し、山地流域内では土と材積量が増加しつつある。そのため、今、国内の山地の多くはこの100～200年では経験したことのない状況（豊かな植生、厚い土層）にあると考えられる。

この場合、一度の豪雨で流出する土砂と流木の量は、山地が荒廃していた時代よりも多くなる可能性がある。さらに近年、気候変動の影響があらわれ始め、今後いっそう豪雨の頻度や強度が増すことが予想されている。このように場の条件と災害の誘因となる外力のいずれもが変化しており、災害の生じ方が従来と異なってくる可能性が考えられる。一方で、現在の災害対策技術は過去の災害の経験をもとにしている部分が多くあり、将来の災害を予防するためには、山地森林環境の歴史的な変化を理解し、それらが水・土砂・流木の流出に及ぼしてきた影響を考慮した上で将来を予測する必要がある。

昨年度の企画シンポジウムでは、時間の流れの中で森林環境や災害の現状を理解することに焦点を当て、主に江戸時代以降に大きく変化した山地・森林、土壌やそれらを取り巻く社会や山地災害の変遷を振り返った。そうしたところ、目の前にある山地森林環境が成立した歴史的な経緯を理解することが重要であるが、山地環境は異なる時間軸を持つ複数の要因が相互に関係し合っ成り立つ複雑な系であるということ、したがって過去を知り正しく整理・分析する必要があるが、過去の現象解明は容易ではないことがわかってきた。そこで今年度も引き続き同じテーマでシンポジウムを行い、過去の現象理解を深め、災害予測や今後の森林管理につなげる可能性をさぐる。

S3. 環境変化にともなう森林の生産性と分布の予測

Forest productivity and distribution under changing environment

コーディネータ：渡辺 誠（東京農工大学）

3月28日 9:00～12:00 会場 Room 3

産業革命以降、化石燃料の消費増大に代表される人間活動によって、森林を取り巻く環境は劇的に変化している。気候変動に伴う降水量の変化、大気 CO₂ 濃度の上昇、窒素や硫黄などを含んだ酸性物質の沈着量の増加、オゾンや PM_{2.5} などの大気汚染物質が森林生態系に与える地球規模の影響が懸念されている。このような環境変化は、光合成活性の低下、土壌の養分・水分の利用性や病虫害に対する抵抗性といった様々なプロセスに複雑な変化を与え、森林の生産性や分布に影響を与える。そして、そのフィードバック作用として、森林からの養分・水分および揮発性有機化合物などの放出特性も変化する。数十年以上かけて蓄積される森林バイオマス、環境資源としての森林の持続的利用、そして流域レベルでの物質循環の将来予測を行う上で、これら人為的な環境変化と森林・樹木における相互作用の理解は避けて通ることができない重要な課題である。

本シンポジウムでは樹木生理生態学を基礎として、環境に関わるモニタリング、実験的研究およびフィールド調査、さらには数値モデルを用いた森林や樹木への影響評価に関する研究、というように分野横断的に最新の知見を持ち寄り、日本をはじめとしたアジア地域の森林に対する環境変化の影響と将来の展望を議論する。特に異なる分野間の異なるスケールで得られた知見を、どのように融合していくのかについての議論を深めることを目的とする。

S4. 森林バイオマス利用はカーボンニュートラルか？ 炭素負債問題を理解する

Is forest bioenergy carbon neutral? Understanding the carbon debt issues

コーディネーター：相川高信（自然エネルギー財団）、久保山裕史（森林総合研究所）

3月28日 9:00～12:00 会場 Room 4

バイオマス起源の CO₂ は、生物の成長過程で光合成により大気中から吸収されたものであり、燃焼時に大気中の CO₂ を増加させないため、差し引きゼロ（炭素中立／カーボンニュートラル）とされ、バイオマスのエネルギー利用を気候変動対策として進める根拠となってきた。しかし近年、この考え方は単純すぎるという批判が強まっている。

事実として、化石燃料に比べてバイオマス燃料の方が単位エネルギー量あたりの CO₂ 排出量が多く、大気中の CO₂ 量を一時的に増加させる。特に、樹木・森林の場合は、成長・再生に時間を要するため、放出された CO₂ の再吸収にかかる時間が長く、CO₂ 削減効果が発現するのに時間がかかると批判されているのである。

他方、バイオマスエネルギー利用の気候変動対策としての評価を定量的に行うためには、森林の現状の炭素蓄積や成長速度、エネルギー利用効率といったパラメーターに加え、エネルギー利用が行われない場合のシナリオ設定など、地域条件の影響を受ける。既往研究の多くは、主に欧州や北米においてに行われてきたため、日本国内の条件に基づく研究が必要であるが、サプライチェーンの LCA 評価研究は行われているものの、バイオマス由来の CO₂ を考慮した議論は行われてこなかった。さらに日本では、木質バイオマス燃料消費量は今後も増加することが予想される中、カスケード利用を前提とした従来型の供給方法に加えて、新たに早生樹や広葉樹の活用などが政策的に検討されており、これらも含めて科学的な評価が行われる必要がある。その際には、LCA などを用いた環境評価に加え、造林・利用上の技術的・経済的な制約も考慮する必要がある。

そこで、本企画シンポジウムでは、国際的な論争の論点整理を行うとともに、実際に日本の状況を想定した研究報告と、今後に向けた供給オプションの可能性と課題を探る。これらの結果を踏まえて、日本の林業・バイオマス政策への示唆を示したい。

【第1部】炭素負債問題の国際動向と日本への示唆（モデレーター：相川）

泊みゆき（NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク）

古俣寛隆（北海道立総合研究機構林産試験場）

大久保敏宏（一般社団法人日本木質バイオマスエネルギー協会）

【第2部】持続可能かつ気候変動対策として有効な供給（モデレーター：久保山）

原山尚徳（森林総合研究所）

羽里信和（一般社団法人徳島地域エネルギー）

佐藤政宗（株式会社森のエネルギー研究所）

S5. 生理部門企画シンポジウム「動的な細胞壁」とポスター紹介・討論

Tree Physiology Section Symposium “Cell wall dynamics” and poster discussion

コーディネータ：則定真利子（東京大学）、田原 恒（森林総合研究所）、
小島克己（東京大学）、斎藤秀之（北海道大学）、津山孝人（九州大学）

3月28日 13:00～16:00 会場 Room 8

講演会「動的な細胞壁」と生理部門のポスター発表の1分紹介とで構成する生理部門の企画シンポジウムを開催します。

生理部門では、個体から細胞・分子レベルまでの幅広いスケールの現象を対象に、多様な手法を用いて樹木の成長の仕組みを明らかにする研究に携わる方々の情報・意見交換の場となることを目指しています。従来の研究分野の枠組みにとらわれることなく、さまざまなスケール・手法で樹木の成長の仕組みの解明に携わる多くの皆様に、生理部門での口頭・ポスター発表にご参加頂くとともに、本シンポジウムにご参集頂きたいと考えております。

講演会では、細胞壁に注目し、外界因子に対して動的に応答するさまを見つめ、樹木の環境応答を細胞壁から考えます。筑波大学の岩井宏暁さんには、細胞壁のペクチンが担っている環境応答機能についてご講演頂きます。埼玉大学の高橋大輔さんには、細胞壁多糖およびタンパク質に焦点を当てて取り組まれておられる凍結耐性の仕組みについてご講演いただきます。神戸大学の東若菜さんには、細胞壁を構成する生体分子と水との相互作用に注目して追究されてこられた葉の貯水能についてご講演いただきます。

講演会に引き続き、生理部門でポスター発表をされる方々に発表内容を1分間でご紹介いただき、口頭での討論をする場を設けます。

生理部門では、大会期間中に討論や懇親など多目的に自由に使えるオンラインスペースを用意します。詳細については、生理部門のFacebookページ（森林学会_生理部門/Tree_Physiology_JFS）やツイッター（@TreePhysiol_JFS）などで随時ご案内していきます。

公募セッション

T1. 生物多様性保全と森林管理

Biodiversity conservation and forest management

コーディネータ：山中聡（森林総合研究所）、山浦悠一（森林総合研究所）

3月28日 9:30～11:45 会場 Room 6

ポスター発表 P-446～P-447

森林の減少・劣化は世界規模で進行しており、森林生態系における生物多様性の保全とその持続可能な利用のための行動が必要とされています。日本の国土の約7割は森林に覆われていますが、人間活動による改変が少ない森林は限られており、原生林やそれらに依存する生物の生息地を維持することは重要です。また近年では、里山などで人間活動の衰退に伴う生物多様性の減少も懸念されています。その一方で、日本の森林の4割を占める人工林は各地で伐採が進み、林業の地域社会や経済への貢献が期待されています。これらの人工林は一般に生物多様性が低いことが知られていますが、管理の仕方によって多くの生物の生息地として機能するとも指摘されています。森林と林業の社会的価値や持続可能性を向上させていくために、日本でも生物多様性の保全に配慮した森林の管理が、今後より重要となっていくと考えられます。

生物多様性の保全に配慮した森林管理を行うためには、様々な分類群や林相（天然林や人工林など）、地域を対象とした生態学的研究や保全技術の開発や検証、集積が必要です。また、得られた知見を実際の森林管理に導入するためには、政策学や社会経済学など、様々な学問分野からのアプローチが必要とされます。

本セッションでは、森林生態系における生物多様性の保全という共通の課題を扱う研究の発表を募ることで、これまで異なるセッションで発表されてきた研究や研究者が集まる場を作りたいと考えています。研究対象とする生物多様性の階層（遺伝子、種、生態系）や空間スケール（林分、景観、流域など）、学問分野は問いません。発表形式は口頭発表とポスター発表の両方を対象とします。当セッションでの発表やその中での議論を通して、参加者の方々が取り組んでいる課題について情報を交換・議論し、理解を深め、生物多様性に配慮した森林管理の実践に寄与することを目的とします。

T2. 森林環境の持つ保健休養機能の基礎的研究と応用研究－森林+ α のころみ－

Basic and applied studies on forest amenities

コーディネータ：上原 巖（東京農業大学）

3月28日 9:00～10:45 会場 Room 5

ポスター発表 P-448

本セッションは本大会で18回目を迎え、森林科学研究の分野の中で、一般市民の需要と関心が高い分野の1つである。これまでの大会では、生理的および心理的なアプローチの基礎的研究をはじめ、臨床事例、研究手法、尺度開発、国内外の地域における事例研究などが発表されてきた。基礎的研究から、保健休養に供する森林環境の整備といったハードの課題、治療・保養プログラム作成等のソフトの課題、そして各臨床症例・事例研究や、保養地事例などに至るまで多岐にわたった内容になっていることが特徴である。そのため、森林・林業関係者だけでなく、医療、社会福祉、心理、教育など、多領域の専門家に参加していただきながらコラボレーションを行ってきたことも特色であり、本セッションの存続意義である。

第133回大会ではさらに、「森林+ α のころみ」をサブテーマに掲げ、「森林+コロナ」「森林+カウンセリング」「森林+ケア」など、一般市民の健康増進はもとより、日常生活における保健衛生や、医療、福祉、教育などの諸分野とも複合したセッションを目指したい。また、本大会のセッションでは、そのような諸分野における視点から心身の保健休養の調査研究だけでなく、事例研究にも重点を置き、森林の持つ保健休養機能についての研究手法、アプローチ方法についても検討、考究することを目的とする。

身近な事象から国際的な課題まで、多様な研究発表をお待ちしています！

T3. 森林の放射能研究

Research on radioactivity in contaminated forests

コーディネータ：小松雅史（森林総合研究所）、大久保達弘（宇都宮大学）

3月28日 13:00～15:30 会場 Room 6

ポスター発表 P-449～P-467

前回大会が行われた2021年3月は、震災から10年という節目でした。そこでこれまでの研究を振り返り、今後のことを考えるため、企画シンポジウムを開催しました。森林の放射能研究はこの10年で多くのことが明らかになった一方、未だ多くの課題が残されていることが共有されました。例えば、森林に降った放射性セシウムの大まかな挙動についてはわかってきましたが、より細かい動きは不明な点が多いのが現状です。こうした情報は森林ごとの放射性セシウムの分布や将来予測のために役立ちます。また、広葉樹や林産物の汚染は未だに問題となっており、研究をどのように問題解決に結びつけていくか、よく検討しながら進めていくことが必要となります。復興庁が10年延長になるなど、震災復興の

動きは現在も続いています。次の 10 年が非常に重要であることは間違いありません。限られた時間の中で問題解決するためにも研究と公表を継続していくことが不可欠です。今回再び公募セッションを行い、引き続き森林の放射能についての研究発表を皆様から募ります。オンラインで口頭発表とポスター発表どちらの発表形式も可能とする予定です。帰還困難地域での調査を含めた森林内の放射性セシウムの循環、林産物の汚染、汚染低減のための対策、社会への影響など、幅広い視点からの発表をお待ちしています。

T4. 樹木根の成長と機能

Development and function of tree roots

コーディネータ：平野恭弘（名古屋大学）、大橋瑞江（兵庫県立大学）、
野口享太郎（森林総合研究所）

3月28日 13:00～15:30 会場 Room 7

ポスター発表 P-468～P-480

公募セッション「樹木根の成長と機能」では、樹木根をキーワードに太い根から細い根まで、生態系レベルから細胞レベルまで、根と関連した多岐にわたる研究を公募し、報告対象といたします。本公募セッションでは、樹木根だけでなく、様々な境界領域分野との融合を目指します。研究内容に「根」に関する測定や事象があれば、葉や材をはじめとする樹木地上部に関する研究、土壌微生物や化学特性、緊縛力など土壌に関する研究、温暖化や酸性化といった環境変動に関する研究など、根以外を主な対象とする発表も広く歓迎いたします。また「根」を測定項目としたい会員向けに測定方法の共有も目的とします。発表形式は口頭発表またはポスター発表とします。

発表当日は、趣旨説明の後、口頭発表していただき、適宜発表間に討論時間を設け、最後に総合討論の時間を設ける予定です。趣旨説明では根研究学会の開催する根研究集会の紹介、2022年7月に米国で開催予定の第8回国際樹木根会議の紹介など樹木根研究の国際および国内動向を森林学会員に広く情報提供します。総合討論では、樹木根と境界領域分野との研究者間ネットワーク作りを促進するための討論も行います。

学会企画

学会企画1. 4年制大学における森林科学教育の現状と今後の方向 —技術者教育の視点から—

コーディネータ：枚田邦宏（企画担当理事・鹿児島大学）、松本武（同主事・東京農工大学）

3月26日 13:00～17:00 会場 別枠

日本森林学会では、2021年に大学教育検討委員会を設置し、2021年3月には、シンポジウム「技術者教育からみた4年生大学の現状」を開催し、大学設置基準の大綱化（1991年）など大学教育をめぐる状況の変化と、林学科から森林科学に関する学科や教育コース等へ改編が進んだ状況を整理しました。今年度は、「大学における専門教育の現状調査」*の結果をふまえた現状を報告し、今後の森林科学の専門教育のあり方を議論したい。日本森林学会会員に限らず、行政・業界関係者や教育関係者など、多くの方のご参加をお待ちしております。

開催日：2022年3月26日(土) 13時～17時(学会大会前日)

開催方法:Web (Zoom) 事前申し込み 3月24日(木)17時締切

主催：一般社団法人日本森林学会

後援：公益社団法人大日本山林会、一般社団法人林業経済研究所

参加費：無料(日本森林学会会員に限らずどなたでもご参加いただけます)

申込方法→<https://forms.gle/3wNkTLF1or9ywLidA>

コーディネータ:枚田邦宏(日本森林学会;林業教育研究会)

内容

13:00 開会挨拶 枚田邦宏(鹿児島大学農学部)

13:05 「大学における専門教育の現状調査」*の報告
井上真理子(森林総合研究所)・杉浦克明(日本大学)

14:20 今後の森林科学の大学教育方向について
枚田邦宏(鹿児島大学・大学教育検討特別委員会委員長)

15:00 森林科学の教育現場・就職現場からのコメント
松本 武(東京農工大学)
林野庁森林・林業技術者育成対策官 松山康治
岐阜県職員 中村幹広
福島県職員 木村憲一郎

15:50 全体討論 座長:土屋俊幸(林業経済研究所所長)

16:55 閉会挨拶



*「大学における専門教育の現状調査」(日本森林学会大学教育検討委員会)：森林学系の大学関係者に2021年8～11月にアンケートで調査を実施。調査者(林学教育研究会、代表：枚田邦宏)、後援(「令和3年度林業経済研究所調査事業」公益社団法人大日本山林会后援)。

学会企画2. 大学での森林の学びや研究を知ろう－高校生と大学生との交流を交えて－

コーディネータ：太田祐子（中等教育連携推進担当理事，日本大学）
杉浦克明（中等教育連携推進担当主事，日本大学）
司会：藤野正也（中等教育連携推進委員，福島大学）
3月28日 16:30～18:00 会場 Zoom 開催（別枠）

事前申込制：申し込みを希望される方はこちら→ <https://forms.gle/WGsAAaGCFiDex8By9>

（または右 QR コードから）のフォームにご記入の上送信願います。

開催日が近づきましたら web 会議（zoom）の情報をお知らせします。

高校生ポスター発表校の方は申し込み不要です（後日お知らせします）。



この企画は、森林に関する研究発表を行った高校生の皆さんが、現役の大学生・大学院生とぎっくばらんに情報交換できる場にしたいと思っています。

はじめに、皆さんの研究の成果であるポスターの結果発表と表彰式を行います。続いて、大学での学びや研究に関していくつかの大学の講義や実習の様子を紹介します。国の森林管理に携わる林野庁職員の方が、なぜ林野庁で働くことになったのかその理由に迫ります。

最後に現役大学生・大学院生との意見交換の場を設けます。大学で森林科学を学ぶことについて現役の学生に質問できるまたとない機会です。皆さんの進路の参考になる話が聞けるかもしれません。高校生の皆さんの積極的な参加をお待ちしております。

1. 高校生ポスター表彰式 森林学会会長より総評
2. 大学での森林の学びや研究を知ろう 動画 10 分程度（大学の講義や授業の紹介）
3. なぜ林野庁で働くことになったのか？その理由に迫る 動画 10 分程度（林野庁職員）
4. 高校生と大学生・大学院生との意見交換

第9回 高校生ポスター発表 学校名・発表題目

表彰式などを3月28日(月)16:30～学会企画「大学での森林の学びや研究を知ろうー高校生と大学生との交流を交えてー」の中で行います。参加校の生徒の皆さんは上記の企画にご参加ください。

発表番号	学校名	発表題目
KP-01	青森明の星中学・高等学校	持続可能な地元密着型森林資源の活用
KP-02	宮城県多賀城高等学校	未知なる生物「マクラギヤスデ」の生息北限を探る
KP-03	栃木県立鹿沼南高等学校	おたね人参復活プロジェクト
KP-04	群馬県立勢多農林高等学校	国の名勝及び天然記念物「冬桜」の保全に関する研究
KP-05	群馬県立勢多農林高等学校	赤城山「サクラソウ」の保護活動
KP-06	群馬県立利根実業高等学校	ソバ殻と三番粉を培地基材としたアラゲキクラゲの栽培実験
KP-07	チームアライグマ*	埼玉県における外来生物クビアカツヤカミキリの拡大状況と傾向
KP-08	東京都立大島高等学校	伊豆大島の地域資源「ツバキ・サクラ」の保全と活用
KP-09	海城中学高等学校	北野の谷戸におけるモミの分布と更新
KP-10	海城中学高等学校	北野の谷戸におけるサイハイランの分布
KP-11	東京都立国分寺高等学校	"こだま"のような存在の暗い森にすむカラスバトの生態に挑む
KP-12	浅野中学・高等学校	校内の山林を用いた炭素収支の測定と炭素固定機能の改善
KP-13	私立藤沢翔陵高等学校	木の枝を用い作成した灰を土に混ぜる事で植生にどのような影響を与えるか
KP-14	私立藤沢翔陵高等学校	木材チップを用いた燻製による名産品開発の可能性
KP-15	私立藤沢翔陵高等学校	昆虫食の可能性と今後の展望
KP-16	富山第一高等学校	方形区毎木調査による有峰ブナ林の研究
KP-17	富山第一高等学校	ライントランセクト調査による有峰猪根山遊歩道の植生研究
KP-18	山梨県立吉田高等学校	リモートセンシング・GIS技術活用によるナラ枯れの被害状況把握
KP-19	長野県木曾青峰高等学校	目撃情報によるツキノワグマの市街地侵入の経路推定
KP-20	岐阜県立岐阜農林高等学校	竹林資源の活用を探る
KP-21	岐阜県立郡上高等学校	ヒノキコンテナ苗の成長に効果的な施肥量及び培土について
KP-22	京都府立菟道高等学校	学校林を利用する哺乳類の3年間の推移～自動撮影装置による調査から～
KP-23	京都府立菟道高等学校	シカがくる学校～菟道高校とニホンジカの記録～
KP-24	奈良県立国際高等学校	外来生物から桜を守れ!～いのちとどう向き合うか～
KP-25	広島県立庄原実業高等学校	ウルシの生産・販売に関する活動
KP-26	香川県立三木高等学校	ホトケノザとトビムシの生息数
KP-27	熊本県立矢部高等学校	「林業のチカラ×ふくしの心」～山都町の木材を活用した福祉用具の開発～

* チームアライグマ (埼玉県立蕨高等学校、埼玉県立坂戸西高校、埼玉県立川越女子高等学校、埼玉県立所沢北高等学校、埼玉県立越谷北高等学校、埼玉県立熊谷西高等学校、埼玉県立越ヶ谷高等学校)

国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」助成事業／大日本山学会協賛 中等教育連携推進委員会

学会企画3. 帰国留学生会員およびアジアの林学会とのネットワークフォーラム

コーディネータ：大久保達弘（国際交流担当理事，宇都宮大学）、大田真彦（九州工業大学）
交流会 3月28日 17:00~18:30 会場 別棟
ポスター発表（全日）

日本森林学会には、多数の留学生が学生会員として所属し、発表を行なっている。しかし、会費負担等の関係から、帰国後は本学会を退会し、関係が疎遠になる場合が多い。

そこで、本企画では、オンライン開催のメリットを生かし、すでに本国に帰国した元留学生会員への学会参加・発表機会を提供する。目的としては、学位取得後の研究フォローアップ、学会発表実績の提供および帰国留学生会員同士や日本人会員との国際共同研究の萌芽形成を想定している。

参加者から事前に提出されたポスター発表を、学会の全日程、非同期（オンデマンド）形式で公開する。これに加え、本企画では、同期（リアルタイム）形式で交流会を行い、参加者同士が直接やりとりできる機会を提供し、今後の交流に向けた意見交換を予定している。

また今年度は、アジア各国の林学会（韓国、中国）からの活動内容の紹介も含む予定である。現在日本の大学に所属している留学生会員や日本人会員にも、積極的に参加して頂きたい。

同期（リアルタイム）形式で交流会への参加は、必要事項（参加者氏名・身分・所属先・メールアドレス）を、期日（3月22日）までに担当者（大田真彦、ota@dhs.kyutech.ac.jp）までお送りください。こちらからオンラインアドレス（ZOOM）をお送りいたします。

Online Reunion of Ex-Overseas Student Members and International Networking Forum among Forest Societies in Asia

Coordinator: OHKUBO Tatsuhiro (Director of International Exchange, JFS, Utsunomiya University),
OTA Masahiko (Kyushu Institute of Technology)

Program: Poster Presentations (All days), Networking Meeting (March 28, 17:00-18:30)

There are many active international student members in The Japan Forest Society. However, due to the burden of membership fees and other factors, many of them withdraw from the Society after returning to their home countries, and the relationship with the Society often becomes estranged. The purpose of this project is to provide an opportunity for former international students who have already returned to their home countries to participate in the conference and make presentations, taking advantage of the merits of the online conference. The purpose of this project is to follow up their research after obtaining their degrees, to provide them with an opportunity to present their research at academic conferences, and to form the seeds of international joint research among former international student members and with Japanese members.

The poster presentations submitted in advance by the participants will be opened to the public in an asynchronous (on-demand) format during the entire conference. In addition to this, we plan to hold an exchange meeting in a synchronous (real-time) format to provide an opportunity for participants to communicate directly with each other and exchange opinions for future exchanges. And also we plan to include an introduction of activities from forestry societies in Asian countries (Korea and China). We hope that international and Japanese members who currently belong to Japanese universities will actively participate in the meeting.

If you wish to participate in the networking meeting in a synchronous (real-time) format, please send the required information (participant's name, status, affiliation, and e-mail address) to Ota Masahiko at ota@dhs.kyutech.ac.jp by the deadline (March 22). We will send you the web meeting (ZOOM) address.

Poster presentations from overseas

GP-01 Customary Forest Development in Indonesia: Opportunity and Challenge (A Literature Review)

Imam Budiman¹, Eko Pujiono²

¹ Instrument Standardization Agency of Kupang, Ministry of Environment and Forestry, Indonesia

² National Research and Innovation Agency of Kupang, Indonesia

GP-02 Necessities of development of agroforestry cooperatives in Bangladesh: Lesson learn from Japan

Kazi Kamrul Islam^{1,2}

¹ Professor, Department of Agroforestry, Faculty of Agriculture, Bangladesh Agricultural University, Mymensingh-2202, Bangladesh

² Former PhD and JSPS Post-doctoral Fellow, Forest Policy Laboratory and Institute of Tropical Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, Japan

GP-03 Cutting Propagation and In vitro Micropropagation of an Endangered *Diabelia spathulate*

Do-yeon Kim¹, Jeong Gul Jang¹, Jun-won Kang^{1*}, Yoo Gyeong Park², Jeong Mi Park²

¹ School of Forest Sciences and Landscape Architecture, Kyungpook National University, Daegu, Korea

² National Institute of Biological Resources (NIBR), 1008-11, Sangnam-ro, sangnam-myeon, Miryang, Korea

GP-04 The actual condition of the Landcreep in Suncheon-si Republic of Korea

Jaehyeon Park¹, Sanghyeon Lee^{1*}, Hyun Kim¹

¹ Department of Forest Resources, Gyeongsang National University, JinJu, Korea

GP-05 Analysis of landcreep according to Korea's landslide risk assessment criteria

Jaehyeon Park^{1*}, Sanghyeon Lee¹, Kidae Kim²

¹ Department of Forest Resources, Gyeongsang National University JinJu Korea

² Department of Forest Environment protection Kangwon National University, Chuncheon, Korea

GP-06 Control efficacy of salt treatment against kudzu (*Pueraria montana* var. *lobata*)

Junhyung Park¹, Dahye Seo¹, Hyojun Ahn¹, and Ki Woo Kim^{1,2}

¹ Department of Ecology and Environmental System, Kyungpook National University, Sangju, Korea

² Tree Diagnostic Center, Kyungpook National University, Sangju, Korea

GP-07 Main Activities of Korean Society of Forest Science in 2021 under the impact of COVID-19

Ho Sang Kang^{1,2}, Jung Kee Choi^{1,3}, Su Yong Woo^{1,4}

¹ Korean Society of Forest Science, Seoul Institutes of Green Bio Science and Technology, Seoul, Korea

² Institutes of Green Bio Science and Technology, Seoul National University, Pyeongchang, Korea

³ Kangwon National University, Chuncheon, Korea

⁴ University of Seoul, Seoul, Korea

GP-08 Environmental themes and ecosystem services (ES) in picture books about forests for education for sustainability

Jang-Hwan Jo

Department of Forest Sciences and Landscape Architecture, Wonkwang University, Iksan, Korea

GP-09 Introduction of Chinese Forest Therapy

Nan Hailong

Beijing Municipal Forestry and Parks Bureau, China

GP-10 Introduction of Chinese Society of Forestry

Feng Caiyun

Chinese Society of Forestry, China

GP-11 Dynamics of *Abies koreana* Seedlings in Relation to Environmental Factor in Jiri Mountain, Korea

Ji-Dong Kim¹, Chung Weon Yun²

¹ Baekdudaegan National Arboretum, Bongwa, Korea

² Department of Forest Science, Kongju National University, Yesan, Korea

学会企画4. 森林学会におけるダイバーシティ ～多様な立場に寄りそえる学会を目指して～

3月29日 12:15～14:15 会場 Room 8

コーディネータ:

竹内啓恵 (ダイバーシティ推進担当主事・ダイバーシティ推進委員会幹事/
全国森林レクリエーション協会)

田中 浩 (学協会対応理事・ダイバーシティ推進委員/国際緑化推進センター)

鈴木智之 (ダイバーシティ推進委員/東京大学)

山下詠子 (ダイバーシティ推進委員/東京農業大学)

高山範理 (ダイバーシティ推進担当理事・ダイバーシティ推進委員会委員長) /森林総合研究所)

開催日時: 2022年3月29日(火) 12:15-14:15

開催形式: Zoom ミーティング 参加費無料・申込不要

URL等の詳細は、大会ウェブサイトでご確認ください

多様な立場の学会員が、気持ちよく研究・学会活動を行えることを目指して、森林学会のダイバーシティ推進委員会による標記シンポジウムを開催する。

今年度は、さまざまな立場で研究活動を継続してきた5名の研究者の報告を通して、1) 研究活動と多様なライフイベント・ライフコースとの両立について情報を共有する、2) それぞれの立場から、学会に対しての要望・期待することを報告していただき、課題等を共有する。以上により、学生や若手研究者らが、より広い視野で、自分たちのキャリアビジョンを描けるようサポートし、ダイバーシティ推進に貢献することを目指す。

<プログラム>

- ・開会挨拶 玉井幸治 (森林総合研究所)
- ・趣旨説明 竹内啓恵
- ・事例報告① 山下詠子 (東京農業大学) 「研究者のキャリア形成とライフイベント」
- ・事例報告② 竹本周平 (東京大学) 「男性研究者による育児休業体験談」
- ・事例報告③ 小田智基 (森林総合研究所) 「海外での研究生活から見えたダイバーシティ」
- ・事例報告④ Worth James Raymond Peter (森林総合研究所)
「外国籍研究者による国内における研究活動」
- ・事例報告⑤ 山下直子 (森林総合研究所関西支所) 「研究活動と国際結婚」
- ・パネルディスカッション
テーマ: 「多様な立場に寄りそえる学会であるために何ができる？」
司 会: 田中 浩
パネリスト: 山下詠子・竹本周平・小田智基・Worth James・山下直子・高山範理・鈴木智之
- ・会長コメント 丹下 健
- ・閉会挨拶 高山範理



森林学会におけるダイバーシティ

～多様な立場に寄りそえる学会を目指して～

オンライン開催
無料・申込不要

2022年3月29日(火) 12:15~14:15

多様な立場の学会員が、気持ちよく学会活動を行えることを目指して、森林学会のダイバーシティ推進委員会によるシンポジウムを開催します。研究活動と多様なライフイベント・ライフコースとの両立について皆さんと考え、また学生や若手研究者が、より広い視野で、自分たちのキャリアビジョンを描けるようにサポートできることを目指します。多数のご参加をお待ちしておりますので、ぜひ、気軽にお立ちよりください！

URL等の詳細は [学会ウェブサイト](#)でご確認ください

第1部 事例報告 総司会 玉井幸治

12:15 開会 玉井幸治

趣旨説明 竹内啓恵

12:20 「研究者のキャリア形成とライフイベント」 山下詠子

12:30 「男性研究者による育児休業体験談」 竹本周平

12:40 「海外での研究生活から見たダイバーシティ」 小田智基

12:50 「外国籍研究者による国内における研究活動」 Worth James

13:00 「研究活動と国際結婚」 山下直子

13:10 第一部終了

第2部 パネルディスカッション

13:20 「多様な立場に寄りそえる学会であるために何が出来る？」

司会：田中 浩

パネリスト：山下詠子・竹本周平・小田智基・Worth James・

山下直子・高山範理・鈴木智之

14:00 会長コメント 丹下 健

14:05 閉会挨拶 高山範理

第二部終了



玉井幸治
森林学会総務担当理事・
ダイバーシティ推進
委員会副委員長
/森林総合研究所



竹内啓恵
森林学会ダイバーシティ推
進担当理事・ダイバーシ
ティ推進委員会幹事/全国
森林レクリエーション協会



山下詠子
ダイバーシティ推進委員/
東京農業大学



竹本周平
東京大学演習林



小田智基
森林学会総務主事・ダ
イバーシティ推進委員
/森林総合研究所



Worth James
森林総合研究所



山下直子
森林総合研究所
関西支所



田中浩
森林学会学協会対応理事・
ダイバーシティ推進委員/
国際緑化推進センター



鈴木智之
ダイバーシティ推進委員/
東京大学演習林



丹下健
森林学会会長/
東京大学



高山範理
森林学会ダイバーシティ
推進担当理事・ダイバー
シティ推進委員会委員長
/森林総合研究所

ダイバーシティ推進委員会では、会員サポート企画「あつまれ！がっかいの森」を別途開催します！

3月27日(日) 11:30~13:00 昼の部「ゆるっと話そうーワークライフバランスとかー」 (@Zoom)

3月28日(月) 17:00~20:00 夜の部「ゆるっと話そうーキャリア形成とかー」 (@Gather.town)

ともに「参加費無料・事前申込不要」です！こちらの詳細も学会ウェブサイトで！



主催：日本森林学会ダイバーシティ推進委員会 後援：男女共同参画学協会連絡会

学会企画5. あつまれ！がっかいの森

<昼の部>～ゆるっと話そう ワークライフバランスとか～

<夜の部>～ゆるっと話そう キャリア形成とか～

コーディネーター：

高田 乃倫予（ダイバーシティ推進委員/岩手大学）

岩永 青史（ダイバーシティ推進委員/名古屋大学）

木村 恵（ダイバーシティ推進委員/森林総合研究所 林木育種センター）

山川 博美（ダイバーシティ推進委員/森林総合研究所九州支所）

高山 範理（ダイバーシティ推進担当理事/森林総合研究所）

開催日時：<昼の部>3月27日（日）11:30-13:00

<夜の部>3月28日（月）17:00-20:00

開催形式：<昼の部>Zoom ミーティング（別枠）、事前申込み不要、参加費無料

<夜の部>Gather.town（別枠）、事前申込み不要、参加費無料

普段の生活では、ロールモデルとなる先輩研究者に出会う機会があまりないことや気軽に相談のできる環境を得られていないという声が上がっています。

そこで、本大会では、学会員や本大会に参加される皆様が気軽に情報交換や相談ができ、人と人がつながることのできる語り合える場「あつまれ！がっかいの森」を開催します。「あつまれ！がっかいの森」は、昼の部と夜の部の2部構成となっています。昼の部では、男女問わず育児や共働きの悩み、また女性ならではの悩みなどワークライフバランスをテーマとします。夜の部では、進学や留学、ポストドク、転職などキャリア形成をテーマとしています。

この語り合いを通して、女性のみならずあらゆる人にとって居心地のいい社会になるよう、その一歩につながることを目指します。学生、若手研究者のご参加も大歓迎です。みなさまのご参加をお待ちしております（※URL等の詳細は、学会ウェブサイトでご確認ください）。

第 133 回日本森林学会大会での関連研究集会の情報

例年、日本森林学会大会時には関連研究集会が開催されています。

第 133 回大会はオンラインでの開催となります。情報が寄せられた以下のものをお知らせします。お問い合わせなどは、それぞれの関連研究集会にお願いいたします。

また、ここに記載されていない関連研究集会については、それぞれにお問い合わせください。

1. 133 回日本森林学会大会の交流スペース
2. 森林教育懇談会
3. 森林立地学会
4. 森林遺伝育種学会
5. 森林昆虫談話会
6. 樹木病害研究会
7. 林業経済学会
8. 森林計画学会

133 回日本森林学会大会の交流スペース

会員有志により、大会参加者が休憩をしたり、議論を深めたり、交流を深めたりするための場として、オンライン交流スペース（以下、交流スペース）を Gather.Town（無料版）を使って用意します。交流スペースは、2022 年 3 月 18 日（金）から大会閉会日の 3 月 29 日（火）まで毎日 24 時間ご利用頂けます。使い勝手をご確認頂ける体験スペースを用意しましたので

https://gather.town/app/2hg9qczUNl1koVmT/JFS133_trial; QR コードをご利用頂けます; パスワード:jfs133trial)、よろしければお試して下さい。

交流スペースの利用を希望される方は、利用登録フォーム

<https://forms.gle/FTzBgBPPohyLQsW38>; QR コードをご利用頂けます) で利用登録をしてください。登録後に、利用案内や交流スペースの URL 等をお知らせいたします。無料版の Gather.Town の使用制約上、ひとつの交流スペースに参加できる人数は最大 25 名であるため、複数の交流スペースを用意します。交流スペース間の移動は自由にできますので、適宜、利用者間で移動等の調整をお願いします。利用者間でお互いに交流スペースの使い方などを共有しながら、大会期間中、さらに有意義な時間を過ごしましょう。



体験スペース Trial Space



利用登録 User
Registration

有志：愛甲哲也（北海道大学）・有賀一広（宇都宮大学）・石塚航（北海道立総合研究機構）・小島克己（東京大学）・則定真利子（東京大学）・斎藤秀之（北海道大学）・杉浦克明（日本大学）・高木正博（宮崎大学）・田原恒（森林総合研究所）・津山孝人（九州大学）・西園朋広（森林総合研究所）・渡邊仁志（岐阜県森林研究所）

Networking Space at the 133rd Annual JFS Meeting

We will prepare virtual networking spaces using Gather.Town (free ver.), where the meeting participants can take a break, deepen discussions and interact with each other. The networking spaces are available 24 h a day from Friday, March 18, 2022 until Tuesday, March 29, 2022, the closing day of the meeting. You can experience a trial space of Gather.Town at https://gather.town/app/2hg9qczUNI1koVmT/JFS133_trial (QR code shown above top, password: jfs133trial).

If you would like to use the networking spaces, please register at <https://forms.gle/FTzBgBPPohyLQsW38> (QR code shown above bottom). After registration, you will receive an e-mail message confirming your registration and providing a user guide. Since the free version of Gather.Town allows up to 25 concurrent users, we will prepare multiple spaces to meet the demand. You can move freely between the networking spaces, so please coordinate with other users accordingly. Let's share how to use the networking spaces with other users and enjoy additional fruitful time in the networking spaces during the meeting.

Tetsuya AIKO (Hokkaido Univ.), Kazuhiro ARUGA (Utsunomiya Univ.), Wataru ISHIZUKA (Hokkaido Research Organization), Katsumi KOJIMA (Univ. Tokyo), Mariko NORISADA (Univ. Tokyo), Hideyuki SAITO (Hokkaido Univ.), Katsuaki SUGIURA (Nihon Univ.), Masahiro TAKAGI (Univ. Miyazaki), Ko TAHARA (FFPRI), Michito TSUYAMA (Kyushu Univ.), Tomohiro NISHIZONO (FFPRI), Hitoshi WATANABE (Gifu Prefectural Research Institute for Forests)

森林教育懇談会

研究集会名：森林教育懇談会

テーマ：『森林教育』の著者に聞きたい！

日時：2022年3月22日（火）14：00～17：00

開催方法：オンライン会議システム（Zoom 利用）・事前登録制（50名まで）

事前登録：2022年3月15日（火）17：30 締め切り

参加費：無料（日本森林学会会員以外も参加可能）

連絡先：希望者は、下記 URL を直接入力するか QR コードから（Google フォーム）登録

<https://forms.gle/gSFgeCfVecvwKUC56>

世話人：杉浦克明（日本大学）、井上真理子（森林総合研究所）



内容：日本森林学会の教育部門は、第 114 回大会（2003 年）から継続してきた企画シンポジウムなどが発展し、第 129 回大会（2018 年）から設置されました。これまでも森林教育の関係者によって、学会大会では地域の実践者や他分野の研究者を交えた企画シンポジウムを開催すると共に、現地検討会・エクスカージョン（2017 年鹿児島大学演習林、2018 年高知県日本遺産地域、2019 年佐渡島）を行い、さらに学生ゼミ（2019 年 8 月、2020 年 3 月・8 月、2021 年 9 月）を開催するなど研究交流を行ってきています。

オンライン大会となった今大会は、森林教育研究をさらに深めるために、オンライン懇談会を企画しました。『森林教育』（2015 年、海青社）の著者を囲んで、なかなか聞けない素朴な質問に答えてもらいます。これから森林教育研究に取り組む学生や若手の皆さんや、他の分野の研究者の方など、多くの皆さんの質問をお寄せ下さい。質問は事前登録の際にお願いします。当日は、参加者の研究紹介（自己紹介）も行う予定です。

多くの皆さんの参加をお待ちしております。

森林立地学会

研究集会名：震災から 10 年：津波にねばり強い海岸林づくりの「これまで」と「これから」

日程：2022 年 3 月 26 日（土） 13:30～16:00

開催方法：オンライン開催

参加方法：詳細は森林立地学会のホームページ（<https://shinrin-ritchi.jp/>）とメーリングリストでお知らせします。参加費は無料です。

連絡先：山下尚之（森林総合研究所）・渡邊仁志（岐阜県森林研究所）

Email: ritchi_excursion@ffpri.affrc.go.jp

内容：来る 3 月、東日本大震災から 11 回目の 3.11 を迎えます。地震に伴い発生した巨大津波は、太平洋沿岸で、樹木の根返りや幹折れ、流失などを引き起こし、広域に海岸林を壊滅させました。海岸林が担ってきた防風、防潮、飛砂防止などの防災機能とともに、新たに津波被害の軽減機能を備えた海岸林を再生する取り組みが各分野の関係者によって行われています。こうした海岸林再生の取り組みは、海岸砂地に防災林を造ってきた従来の方法とは大きく異なり、盛土による生育基盤の造成を伴うため、さまざまな試行と工夫が積み重ねられ、進められてきました。津波で被災した沿岸部を訪れると、震災からの 10 年間で、海岸林の再生は大きく進んだことが実感できます。今回のシンポジウムでは、『震災から 10 年：津波にねばり強い海岸林づくりの「これまで」と「これから』』と題し、海岸林の再生そのものや、海岸林に関する調査、研究に携わってきた 8 名の方々にご講演いただき、それぞれ、これまでの取り組みをご紹介します。

森林遺伝育種学会

集会名：画像と AI で切り拓く新たな森林モニタリング

開催日：2022 年 3 月 26 日（土）

開催方法：オンライン（ZOOM webinar を利用）

森林昆虫談話会

研究集会名：第 28 回森林昆虫談話会

テーマ：森の足元に棲む生きものたち－林床に生息する節足動物類の多様性と機能－

日時：2022 年 3 月 30 日（水）9:00～12:00

開催方法：オンライン開催

申込方法：希望者は、Google フォーム(<https://forms.gle/gCfApUtAj8E4J3kZ7>) から事前登録

申込締切：2022 年 3 月 22 日（火）

連絡先：衣浦晴生（森林総合研究所）E-mail: kinuura<アットマーク>ffpri.affrc.go.jp

内容：森林の林床は、落葉落枝などをはじめとした樹木由来の物質をもととする物質循環がダイナミックに見られる重要な環境である。林床環境は多様で、そこに生息する節足動物類も多様かつ様々な機能を有する。森林を理解するには林床を理解することを避けては通れない。今回は、「林床の節足動物」に着目し、枯死木との関わり、林床植物との相互作用、林床環境の多様性について 4 名の研究者より話題提供していただき、足元の生物多様性について理解を深める。

<話題提供>

1. 「環境指標生物としての地表徘徊性甲虫類の多様な飛翔性と食性」
渋谷 園実（東京大学大学院農学生命科学研究科）
2. 「森林生態系におけるコケと動物の相互作用」
今田 弓女（愛媛大学大学院理工学研究科）
3. 「菌経路か？細菌経路か？：安定同位体と脂肪酸分析による腐朽枯死木利用者の食性解析」
鈴木 智之（東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林）
4. 「土壌動物のハビタットの評価」
藤井 佐織（森林総合研究所）

世話人：衣浦晴生（森林総合研究所）・伊藤昌明（青森県産業技術センター林業研究所）・土岐和多瑠（名古屋大学）

樹木病害研究会

日時：2022年3月30日（水）9:00～12:00

テーマ：樹病・微生物研究の最前線

開催方法：Zoom を用いたオンライン開催(各自インストールのこと)

申込方法：申込メールアドレス treediseasejp <アットマーク>gmail.com へ申込，受付後にメールで参加 URL を連絡

申込締切：2022年3月25日（金）先着 90 名

連絡先：楠本 大 〒299-5503 千葉県鴨川市天津 770，東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林，kusumoto <アットマーク>uf.a.u-tokyo.ac.jp；

石原 誠 〒062-0041 札幌市豊平区羊ヶ丘 7 番地，森林総合研究所北海道支所，makolin <アットマーク>affrc.go.jp

高橋由紀子 〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1，森林総合研究所きのこ・森林微生物研究領域森林病理研究室，ytakah <アットマーク>ffpri.affrc.go.jp

内容：近年，遺伝子解析などの分析技術の進歩により，樹病・微生物研究においても新たなアプローチによる研究が試みられ，新たな視座からの理解が進んでいます。今年の樹木病害研究会では「樹病・微生物研究の最前線」をテーマに，若手研究者を中心に最新の研究成果や課題を紹介していただきます。

林業経済学会

研究集会名：林業経済学会 2022 年春季大会シンポジウム

大会日程：2022年3月30日（水）9:30～17:30

会場：オンライン（視聴の方法等は，追って学会の HP，メルマガでお知らせします）

テーマ：継続する原子力災害による森林・林業・山村への被害と復興

連絡先：林雅秀、〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町 1-23 山形大学農学部、

E-mail: hayashima@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

趣旨：2011年3月11日に発生した東日本大震災は、死傷者・行方不明者をあわせて二万人以上という未曾有の大災害となった。さらには震災による東京電力福島第一原子力発電所事故の発生に伴い、東日本の広範囲にわたり放射性セシウムを中心とする放射性物質が拡散するという原子力災害がそれに追い打ちをかけることとなった。今現在も万人単位の人々が避難を余儀なくされるなど、依然として大きな問題が残っている。

今次の原子力災害においては中山間地域の農山村が大きくその影響を受け、農林業や農林産品への影響が非常に大きかった。また、そうした産品の消費地である都市住民も自らの健康問題として被害を捉え国民的関心を集めることとなった。原発事故影響への賠償も進められているものの、拡散した放射性物質による健康影響への評価によって生じた生産者と消費者の分断もいまだ存在している。また、放射性物質の拡散した自然資源や地域資源との有機的連鎖の強い農山村に暮らす人々の生産活動や生活に

おける放射性物質影響のすべてに対して賠償や復旧がなされたわけでもない。

このように多くの問題を未だ抱える原子力災害であるが、林業経済学会においては春季大会シンポジウムにおいては、東日本大震災やそれに伴う原発事故問題を取り上げてはこなかった。こうした点から東北地区で開催される2022年春季大会シンポジウムにおいては、震災から10年以上を経てなお、大きな問題を残す原発事故影響について、学会全体として問題を再共有し、被災地復興への支援について考える契機を提供するものとした。

本シンポジウムでは特に、原子力災害が福島県の産業としての農林業や農山村に及ぼした影響や農山村住民の暮らしやマイナーサブステンス的自然資源利用に及ぼした影響、さらには被害は福島県内にとどまることなく広範囲に及んだことを示す北関東における森林利用への影響についてご報告いただき、議論の契機としたい。

座長 山本 信次（岩手大学）

報告者・報告タイトル：

塩谷 弘康（福島大学）・原子力災害が福島県の農林業・農山村にもたらした被害（仮）

金子 祥之（東北学院大学）・原子力災害が福島県の農山村住民による自然資源利用に及ぼした影響（仮）

山本 美穂（宇都宮大学）・北関東における原子力災害：広葉樹利用・キノコ生産への影響（仮）

コメンテーター：山本 伸幸（森林総研）

森林計画学会

集会名：森林計画学会総会

日時：2022年3月30日（水） 9:30-12:00

開催方法：オンライン

申込方法：会員メーリングリスト等で案内する総会参加申し込みフォームから申込み

内容：今年度の活動報告、決算報告および次年度の活動計画、予算の審議。

森林計画学会各賞の授賞式および受賞者講演。

連絡先：田中真哉 〒612-0855 京都市伏見区桃山町永井久太郎 68 番地 森林総合研究所

関西支所内森林計画学会事務局（jsfp_office<アットマーク>forestplanning.jp）

集会名：森林計画学会春季シンポジウム

テーマ：森林・林業における UAV 利用の現状とその展望

日時：2022年3月30日（水） 13:15～17:00

開催方法：オンライン

参加費：無料（非会員の申込も歓迎します）

申込方法：シンポジウム参加申し込みフォームにて申込み

連絡先：高橋正義 〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1

森林総合研究所 森林災害・被害研究拠点（jsfp.event<アットマーク>gmail.com）

内容：無人航空機（以下、UAV）は、森林を空から観察、調査する際に有用なプラットフォームであり、森林計測に利用可能な低価格の普及型 UAV が急速に普及し始めている。また資材運搬などが可能な大型の業務用 UAV も開発され、林業現場でも活用と森林・林業に関する様々な研究開発が同時並行的に進んでいる。

本シンポジウムでは、森林・林業分野での UAV に関する研究や林業向けの技術開発、現場利用の現状や UAV の技術的な課題や制度上の問題を整理し、森林・林業分野における今後の利活用や研究開発の方向性について議論する。事例報告では、森林の資源調査・管理における UAV 活用技術や新たな解析技術、造林・防災等の分野における UAV を利用した研究など最新の研究開発について報告する。また、森林整備事業の UAV による申請・検査等森林の各種施策での UAV 利用における現状と課題について紹介する。これらを踏まえ、森林・林業分野における UAV の利活用や研究開発の目指すべき方向性について議論する。

UAV を利用する研究者や学生のみならず、UAV を利用している森林・林業技術者、スマート林業など効率性の高い技術に期待を寄せる林業関係者など多くの参加を期待する。

森林計測のみならず UAV を利用する研究者、森林現場で UAV を活用する技術者、行政関係者等幅広い方々に話題提供をして頂く予定です。最新情報や参加申し込みフォームの URL 等は、学会ウェブサイト (<https://www.forestplanning.jp/>) に掲載いたします。